

平成26年度第1回 伏見区基本計画推進区民会議

日時：平成26年6月10日

午前10時～11時30分

場所：伏見区役所4階大会議室

次 第

1 開会、伏見区長あいさつ

2 委員紹介

3 座長あいさつ

4 報告等

(1) 平成26年度伏見区運営方針について

(2) 伏見区区民活動支援事業について

(3) 伏見区基本計画重点戦略「融合プロジェクト」について

5 意見交換等

6 閉会、副座長あいさつ

京都市伏見区基本計画推進区民会議開催要綱

(趣旨)

第1条 伏見区基本計画「皆でつくる すまむら伏見」を区民、事業者等及び行政の協働により推進するに当たり、その進捗を確認し、幅広く意見を求める目的として、「京都市伏見区基本計画推進区民会議」(以下「会議」という。)を開催する。

(委員)

第2条 会議に参加する委員は、学識経験のある者その他伏見区長(以下「区長」という。)が適当と認める者のうちから、区長が依頼し、又は任命する。

2 前項の規定により依頼し、又は任命する委員の人数は、35人以内とする。

(任期)

第3条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(座長の指名等)

第4条 区長は、委員のうちから会議の座長及び副座長を指名する。

2 座長は、会議の進行をつかさどる。

3 座長に事故があるときは、副座長がその職務を代理する。

4 区長は、委員のうちから専門的見地を有する者をアドバイザーに指名することができる。

(招集)

第5条 会議は、区長が招集する。

(委任)

第6条 この要綱に定めるものほか、会議の開催に関して必要な事項は、区長が定める。

(事務局)

第7条 会議の事務局を、伏見区役所地域力推進室に置く。

附則

(施行期日)

1 この要綱は平成26年4月1日から施行する。

(関係要綱の廃止)

2 伏見区基本計画推進区民会議要綱(以下「旧要綱」という。)は、廃止する。

(経過措置)

3 この要綱の施行の際現に旧要綱に基づく伏見区基本計画推進区民会議(以下「旧伏見区基本計画推進区民会議」という。)の委員である者は、この要綱の施行の日(以下「施行日」という。)に会議の委員として依頼又は任命されたものとみなす。この場合において、その依頼され、又は任命されたものとみなされる者の任期は、第3条第1項本文の規定にかかわらず、施行日における旧伏見区基本計画推進区民会議の委員としての任期の残任期間とする。

4 この要綱の施行の際現に旧伏見区基本計画推進区民会議の座長及び副座長である者は、施行日に第4条第1項の規定により座長及び副座長に指名されたものとみなす。

伏見区基本計画推進区民会議委員名簿

(敬称略)

所 属 等	氏 名
大阪府立大学教授	橋爪 紳也(座長)
伏見区市政協力委員連絡協議会	村井 信夫(副座長)
伏見青少年活動センター	石指 温規
醍醐コミュニティバス市民の会	岩井 義男
醍醐いきいき市民活動センター	内野 道代
京都伏見工業会	大窪 茂
伏見区スポーツ推進委員会	岡谷 陽子
京都おやじの会連絡会	小倉 誠一
龍谷大学短期大学部教授	加藤 博史
伏見酒造組合	河崎 耕治
高松伸建築設計事務所	坂田 吉春
伏見区市政協力委員連絡協議会	信部 尚平
伏見区文化協議会	三木 善則
京都市中学校 P T A連絡協議会伏見支部	高桑 鉄則
京都中小企業家同友会伏見支部	戸田 紳司
京都商工会議所中小企業経営支援センター洛南支部	外池 順一
総本山醍醐寺	仲田 順英
伏見区市政協力委員連絡協議会	中野 武司
伏見区市政協力委員連絡協議会（伏見区社会福祉協議会）	中村 紀彦
特定非営利活動法人伏見観光協会	永山 邦明
音楽家	朴 実
伏見区市政協力委員連絡協議会	松浦 弘治
伏見いきいき市民活動センター	三木 俊和
伏見商店街連盟	村上 好夫
伏見区地域女性連合会	村瀬 克子
京エコロジーセンター(公益財団法人京都市環境保全活動推進協会)	谷内口 友寛
公募委員	黒川 有加
公募委員	馬場 史佳
公募委員	梁川 智子
伏見区長	久保 宏
深草担当区長	安井 由美子
醍醐担当区長	浅野 信之

伏見区運営方針



平成 26 年度

「住みたい、住み続けたい」と実感できる

伏見区の実現に向けて、

区民が主役のまちづくりを力強く進めます。

目次

- 1 区民の皆様へのメッセージ ······ p. 1
- 2 平成 26 年度は、次の施策・事業に重点的に取り組みます！ ··· p. 2
 重点方針（1）伏見区基本計画に基づく取組を推進します ··· p. 2
 - ①循環型社会の要を担い、環境共生・低炭素社会の懸けをめざします
 - ②自然と歴史がいきづく地域の魅力を学び、発信します
 - ③伏見力を活かし、「新しい京都」のまちづくりを牽引します
 - ④地域のコミュニティが人を育み、すこやかな暮らしを支えるまちをめざします
 - ⑤安心安全で、人にやさしい便利なまちをめざします
- 重点方針（2）区民の皆様の目線に立ったサービスの提供と区役所機能の強化を進めます ······ p. 7
- 3 「区民提案・共済型まちづくり支援事業予算」の一覧です ··· p. 9
- 4 平成 26 年度の重点方針と取組の一覧です ······ p. 10

伏見区役所
深草支所
醍醐支所

1 区民の皆様へのメッセージ



深草担当区長
安井 由美子



伏見区長
久保 宏



醍醐担当区長
浅野 信之

「伏見区運営方針」は、当該年度の伏見区の重点方針や重点取組を区民の皆様にお示しすることで、区役所の説明責任を果たすとともに、区民の皆様との情報共有を図ることを目的に策定しております。

平成 26 年度は、区民の皆様との協働による「伏見区基本計画」の着実な推進に向けて、「区民提案・共済型まちづくり支援事業予算」をさらに増額し、区民の皆様による自主的なまちづくり活動への財政的支援をより一層充実させてまいります。

また、区民の皆様に一番身近な区役所が、市役所の関係部署としっかりと連携しながら、地域づくりを力強く進めてまいります。

同時に、市民サービスの更なる向上を目指し、職員の人材育成に努め、区民の皆様の目線に立った、よりわかりやすく、ていねいな窓口応対を実践してまいります。

私たち区職員は、区長・担当区長を先頭に、区民の皆様との信頼関係を大切にし「住みたい、住み続けたい」と実感できる魅力ある伏見区となるよう、全力を傾注してまいります。区民の皆様におかれましては、引き続き、区政への御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。



深草地域のマスコットキャラクター
深草うずらの「吉兆（きっちょう）くん」



伏見区シンボルマーク



醍醐地域のイメージキャラクター
もちもちいん

2 平成26年度は、次の施策・事業に重点的に取り組みます！

平成26年度は、重点方針に基づいた具体的な施策及び事業に取り組んでまいります。

重点方針（1） 伏見区基本計画に基づく取組を推進します

基本計画に掲げる「伏見区全域の5つのまちづくりの取組目標」の実現に向けた取組を進めます。

- ① 循環型社会の要を担い、環境共生・低炭素社会の**さきがけ**をめざします
- ② 自然と歴史がいきづく地域の魅力を学び、発信します
- ③ 伏見力を活かし、「新しい京都」のまちづくりを牽引します
- ④ 地域のコミュニティが人を育み、すこやかな暮らしを支えるまちをめざします
- ⑤ 安心安全で、人にやさしい便利なまちをめざします

①循環型社会の要を担い、環境共生・低炭素社会の**さきがけ**をめざします

1 伏見エコライフプロジェクト

地域力推進室

区民が主役のエコライフ活動の実践に向け、市民活動団体、事業者、行政等の交流・連携を促進しつつ、区民一人ひとりが環境にやさしい行動をするきっかけとなる事業展開と情報発信を目指します。

2 モビリティ・マネジメント推進事業

伏見区役所 地域力推進室、神川出張所

地域住民の意識と行動に直接働きかけ、過度なクルマ利用を控え、歩くこと、公共交通等を利用することへの転換を促す取組であるコミュニケーション施策（モビリティ・マネジメント）を久我・久我の杜・羽束師地域及び納所・淀・淀南地域において効果的に推進します。

3 南部クリーンセンター第二工場建替え整備事業

環境政策局

南部クリーンセンター第二工場建替えに当たっては、高効率なごみ発電やバイオガス化技術に加え、これまでのクリーンセンターのイメージを一新し、先進的なモデルとなる世界最先端の環境学習の拠点として整備することとしており（平成31年度稼働予定）、平成26年度は建替え整備に係る設計を行うとともに、解体工事に着手します。

②自然と歴史がいきづく地域の魅力を学び、発信します

4 伏見連続講座「ふれて、しって、みて伏見」

地域力推進室

「伏見ですむ」人が地域の魅力や資源を再発見し、伏見の魅力「伏魅力」を内外に発信していく取組として、区内大学・地域団体が連携し、それぞれの特色を生かした幅広い分野の講演会や体験学習等を実施します。

5 まちが人を育むプロジェクト

深草支所 地域力推進室

まちに「ひと」が生かされ、人に営みが「まち」を形づくるという理念の具体化に向け、琵琶湖疏水（鴨川運河）をはじめ深草の魅力ある資源を発見し活用する取組を支援することで、地域の力や未来の担い手を育てていきます。

③伏見力を活かし、「新しい京都」のまちづくりを牽引します^{けんいん}

6 伏見ルネッサンスプランの推進

伏見区役所 地域力推進室

横大路地域の住民・事業者と本市が協働して、「伏見ルネッサンスプラン」（平成19年3月策定）に基づく取組を進め、横大路地域の再生、さらには京都市南部地域全体の活性化を目指します。

7 久我・久我の杜・羽束師地域のまちづくりの推進

伏見区役所 地域力推進室

久我・久我の杜・羽束師地域における住民、行政、双方の取組の指針である「久我・久我の杜・羽束師地域の総合的なまちづくりビジョン」に基づく取組を進め、「多世代が住む緑豊かな誰もが好きになれるまち」を目指します。

8 伏水・蔵まち構想(仮称)の策定・推進

伏見区役所 地域力推進室・産業観光局

伏見の酒蔵地域やその周辺地域において、醸造産業、商店街、飲食店、観光産業、農業等が連携し、地下水や日本酒など伏見ならではの資源を活用したまちづくりや観光振興施策など、産業界、市民、行政等が協働する各種取組を検討・推進し、地域の活性化を図ります。

9 らくなん進都のまちづくりの推進

都市計画局、産業観光局

京都の都市活力を支える南部地域の先導地区である「らくなん進都（※）」のまちづくりを進めるため、油小路通沿道及び企業敷地における緑化助成事業の実施による良好な都市環境の創出、企業立地促進制度や土地所有者への奨励金制度等による企業集積の更なる推進、駐輪場の設置や東西方向を含めた公共交通網の構築に向けた調査による地区的利便性を高める取組を推進します。

※らくなん進都・・・新しい京都を発信するものづくり拠点としてまちづくりを進めている地域。油小路通を中心におおむね十条通、宇治川、東高瀬川、国道1号に囲まれた約607ha

④ 地域のコミュニティが人を育み、すこやかな暮らしを支えるまちをめざします

10 伏見区区民活動支援事業

地域力推進室

区民の皆様が、自主的に企画し、実践する事業を公募し、基本計画の実現に資すると認められる事業に対して、補助金の交付等により支援します。今年度は補助上限額を引き上げるとともに、小規模事業を想定した枠を併設し、区民が主役のまちづくり活動への支援の充実を図ります。

11 伏見をさかにざっくばらん

地域力推進室

伏見区への熱い思いをお持ちの方が集まる場を提供し、参加者が伏見のまちへの思いをざっくばらんに出し合いながら、ワークショップ形式で議論を深め、区民が主役のまちづくり活動を生み出していくます。第3期となる今年度は新しい仲間も迎え、一層活動の輪を広げます。

12 深草まるごとつながりプロジェクト

深草支所 地域力推進室

深草を舞台とするアニメや深草産農産物を活用した地域活性化の取組を支援することなどにより、地域住民が交流し、にぎわいをつくりだし、つながり、互いを思いやり、すべての人があつあつ、暮らしやすいまちづくりを目指します。

13 醍醐・まちづくり人材育成講座(仮称)

醍醐支所 地域力推進室

醍醐地域の次世代を担う人材となる、まちづくりに興味・関心を持つ若手住民を「発掘」し、ワークショップ方式等で共に考える機会を設け、「育成」します。そして、参加した若手住民が、現在の地域活動を支え汗している住民と共に「活動」することにより、自治活動の新たな担い手となるように支援します。

14 子育てネットワークの充実

醍醐支所 地域力推進室・支援課

幼児から小学校までの子育て機関によって設立された「だいごっこ絵画展企画運営員会」を拡大し、新たなネットワークによる取組で、子育てを地域全体で支援する安心して子育てのできる「子どもの笑顔があふれるまち醍醐」を実現します。

15 地域へ広げる健康づくり

保健センター

地域出張型の健康教室や関係機関、地域住民との協働で健康教室事業を開催することにより、健康づくり活動を地域に浸透させ、心身の健康づくりや感染症に対する意識・関心を高めていきます。

16 乳幼児期、思春期の心身の健康づくり

保健センター

「京都市未来こどもプラン」に基づき、思春期のこころとからだの健康づくりや望ましい食生活を営む力をはぐくむための環境づくり、乳幼児の健やかな発育・発達のためのさまざまな施策を実施します。

17 市民スポーツ施設の整備

文化市民局

区内の市民スポーツ施設（横大路運動公園、伏見桃山城運動公園野球場）の機能強化を図るため、整備及び改修を行います。

⑤安心安全で、人にやさしい便利なまちをめざします

18 地域防災支援プロジェクト

地域力推進室

地域の防災意識を高める活動や避難所開設・運営を含む災害対策、要配慮者対策に向けた区民の自主的な活動を支援・促進します。また、伏見区の防災関係機関とともに区民参加の伏見区総合防災訓練を実施し、地域と行政の更なる連携を図ってまいります。

19 くらしの安全・みんなの安心プロジェクト

深草支所 地域力推進室

深草管内を縦断する本町通を安全でゆったりと歩くことができる道にしていくための地域や学生の取組を支援することなどにより、安全・安心なまちづくりを進めます。

20 大岩街道周辺地域の良好な環境づくりの推進

深草支所 地域力推進室

「大岩街道周辺地域の良好な環境づくりに向けたまちづくりの方針」に基づき、「整備を誘導するエリア」について、関係局との連携の下、地区計画制度の活用等を通じて、良好な環境づくりを誘導していきます。

21 健康危機管理対策の充実

保健センター

各種感染症や食中毒等に対し、関係機関との連携を一層強化し、より迅速かつ的確に対応するとともに、感染症予防についての啓発等に努めます。

22 深草墓園・宝塔寺山墓地再整備事業

保健福祉局

深草墓園・宝塔寺山墓地の一体整備によるバリアフリー化及び利便性の向上を図るとともに、新規募集区画の造成を行います。

23 バリアフリー化の推進

都市計画局・建設局

・「バリアフリー移動等円滑化基本構想」（以下「基本構想」という。）に基づき、JR 藤森駅や京阪深草駅のエレベーターの新設等によるバリアフリー化を推進します。

また、新たに JR 桃山駅周辺を対象とする桃山地区において、駅や周辺道路等のバリアフリー化の概要を示した基本構想を策定します。（都市計画局）

・基本構想に基づき、桃山御陵前地区及び京阪藤森地区等の道路のバリアフリー化を行います。（建設局）

重点方針（2） 区民の皆様の目線に立ったサービスの提供と区役所機能の強化を進めます

24 市民サービスの向上

全課

区民の皆様の目線に立った良質な市民サービスの提供に向けて、わかりやすく、ていねいな説明を行うとともに、正確で迅速な事務処理を行います。さらに、市民サービス向上に向け、各種研修を実施し、職員の人材育成に努めます。

また、制度改正等の皆様にお知らせすべきことは、市民しんぶん伏見区版「きらり伏見」、伏見区ホームページ等を活用し、確実な周知に努めます。

25 「京都市職員コンプライアンス推進指針」に基づく取組の推進

全課

各所属における服務管理及び業務の運用状況の再点検を実施し、また、研修等あらゆる機会を捉え、全ての職員に、法令を確実に遵守することはもとより、職員としての規範意識を常に持ち、創造的・主体的に職務に当たることを徹底します。

また、各所属が保有する情報を適切に管理するとともに広く公開することにより、行政に対する理解と信頼を深めるよう努めます。

26 戸籍のコンピュータ化

市民窓口課、文化市民局

伏見区に本籍のある方の戸籍の証明書発行の迅速化を図り、また、伏見区役所、支所、出張所及び証明書発行コーナーのいずれにおいても発行できるようにします。戸籍を電子情報化して法務局に提出することにより、災害により戸籍が滅失しても、容易に復元できるようになります。

27 市民税等徴収率の向上

税関係課、福祉介護課、支援課（支援保護課）、保険年金課

税及び保険料負担の公平性を確保するため、納付相談等による自主的な納付を一層推進していきます。また、市税等の滞納者への効率的な財産調査や効果のある差押えを徹底するなどの取組を強化し、徴収率の向上に努めます。

28 福祉ネットワークの充実

支援課（支援保護課）

各地域における民生・児童委員や老人福祉員、伏見区社会福祉協議会や各分野の関係機関等が、これまで以上に活発な活動をしていただけるような体制を構築するとともに、地域のネットワーク構築のために関係機関への総合的な支援を行います。

29 生活保護受給者に対する自立支援の促進

保護課（支援保護課）

生活保護受給者数は、近年、全国の傾向と同様、伏見区においても増加していましたが、平成25年度以降は横ばい傾向となり、高止まりの状況となっています。しかしながら、稼働年齢層（18歳～64歳）の受給者が近年増加しているため、これらの方に対して引き続き就労支援を行うなど、自立に向けた支援を行います。



★だいすきっ！京都。寄付金の御案内★

わがまち「伏見区」を応援してください！！



京都市では、全国の京都ファンの方、京都市民の方の思いを、形ある施策として実現するために、「だいすきっ！京都。寄付金」（ふるさと納税寄付金）を設けています。

この度、「応援メニュー」に「地域振興」が追加されました。ぜひとも、「伏見区」を応援してください。寄付をいただいた場合、確定申告をすることで、所得税及び住民税の寄付金控除を受けることができます。

伏見区に寄付いただけた場合は、寄付申出書の応援メニュー欄に、

「文化・景観・環境・**地域振興**（伏見区）」と記載してください。

申出書は、区役所・支所・出張所で配架中。詳しくは、ホームページを御覧ください。

だいすきっ！京都

検索



3 「区民提案・共済型まちづくり支援事業予算」の一覧です

基本計画の実現に向けた取組を推進していくため、地域のまちづくりを、区役所・支所が柔軟かつスピーディにしっかりと支えていく協働の仕組みとして、「区民提案・共済型まちづくり支援事業予算」を平成24年度に創設しました。今年度は、当予算を充実させ、区民が主役のまちづくり活動を更に活性化してまいります。

(1) 区民提案型支援事業

29,795千円

ア 区民活動支援事業枠

区民自らが提案し、自らで取り組むまちづくり活動を公募し、財政的支援を行う。

○伏見区民活動支援事業	8,750千円	…10
-------------	---------	-----

イ 伏見力向上サポート事業枠

区民主体のまちづくり活動に対して、行政が財政的支援を行うと同時に、側面的なサポートを行う。

○融合プロジェクト推進事業 《充実》	8,920千円	
・伏見エコライフプロジェクト	…1	
・伏見連続講座	…4	
・伏見をさかなにざっくばらん	…11	
○地域防災支援プロジェクト	3,450千円	…18
○安心安全ネット継続応援事業	875千円	
○モビリティマネジメント推進事業	1,400千円	…2
○まちが人を育むプロジェクト	2,000千円	…5
○深草まるごとつながりプロジェクト	700千円	…12
○くらしの安全・みんなの安心プロジェクト	1,200千円	…19
○醍醐・まちづくり人材育成講座（仮称）《新規》	1,500千円	…13
○子育てネットワークの充実《新規》	1,000千円	…14

(2) 共済型事業

12,970千円

行政が区民の皆様と共に汗して、区基本計画の推進に向けた事業を実施するための予算

○大岩街道周辺地域の良好な環境づくりの推進	4,000千円	…20
○伏見区基本計画進行管理	200千円	
○区民ふれあい事業	8,770千円	

4 平成26年度の重点方針と取組の一覧です

(注)斜体 表記する局重点事業

26年度重点取組		
取組名	目標	所属等
重点方針(1) 伏見区基本計画に基づく取組を推進します		
①循環型社会の要を担い、環境共生・低炭素社会の創をめざします		
1 伏見エコライフプロジェクト	・環境活動に関わる人への取材活動と情報発信 ・区民参加型交流イベントの実施	地域力推進室
2 モビリティ・マネジメント推進事業	・ワークショップでの議論に基づく、地域住民主体の取組へのサポートの実施 ・新規路線バスの利用者増を目指した啓発の実施	地域力推進室 神川出張所
3 南部クリーンセンター第二工場建設替え整備事業	・建設替え整備に係る設計 ・解体工事に着手	環境政策局
②自然と歴史がいきづく地域の魅力を学び、発信します		
4 伏見連続講座-ふれて、じって、みて伏見-	・事業改善や見直し ・異なる内容の充実や参加者層の拡大	地域力推進室
5 まちが人を育むプロジェクト	・「鴨川運河会議」の活動支援と鴨川運河の魅力発信 ・「ふかくさ自然環境再生ネットワーク」を活用した取組	深草支所 地域力推進室
③伏見力を活かし、「新しい京都」のまちづくりを牽引します		
6 伏見ルネッサンスプランの推進	・プランの具体化及び事業の推進	伏見区役所 地域力推進室
7 久我・久我の村・羽束師走郷のまちづくり	・まちづくり協議会と連携した総合的なまちづくりの推進	伏見区役所 地域力推進室
8 伏水・轟まち構造(仮称)の策定・推進	・地下水や日本酒などをテーマにした地域活性化に向けた構想の策定 ・下三郷地域における農業用水の確保と名水広場の整備	伏見区役所地域力推進室 産業観光局
9 らぐなん道筋のまちづくりの推進	・油小路通沿道及び企業敷地における緑化助成事業の実施 ・企業立地促進制度や土地所有者への奨励金制度の実施 ・駐輪場の設置や公共交通ネットワークの構築に向けた東西筋の公共交通手法の調査 ・京都市成長産業創造センター選定事業の実施	都市計画局・産業観光局
④地域のコミュニティが人を育み、すこやかな暮らしを支えるまちをめざします		
10 伏見区区民活動支援事業	・支援事業制度のPR強化(制度説明会の開催等) ・保険事業への支援策の充実(広報面でのサポート等)	地域力推進室
11 伏見をさかにざつくはらん	・事業提案から実際のまちづくり活動までのサポート体制の充実 ・活動ナーム間の連携を重視した区民主体の活動の機会及び場の拡大	地域力推進室
12 深草まるごとつながりプロジェクト	・アニメを活用した地域活性化支援 ・深草農産物の利活用促進支援	深草支所地域力推進室
13 鶴蘭・まちづくり人材育成講座(仮称)	・人材の掘り起し及び育成 ・地域活動への参画	鶴蘭支所地域力推進室
14 子育てネットワークの充実	・「醍醐子育てフォーラム(仮称)」の設立 ・情報交換会、講演会の開催	醍醐支所地域力推進室 支援課
15 地域へ広げる健康づくり	・健づくりリサポーター、保健チャレンジサポーターの養成及び活動の支援の継続 ・地域出張型教室の充実 ・若い世代を対象とした健康づくり事業の充実	保健センター
16 乳幼児期、思春期の心身の健康づくり	・親子対象の健康づくり講座及び健康教室の実施 ・むし歯予防及び口腔保健の知識の普及を行なう「FUSHIMI歯ビーフプロジェクト」の実施 ・思春期の健診教室(幼稚教室・性感染症対策、いのちの教育等)の充実	保健センター
17 市民スポーツ施設の整備	・境大路運動公園の再整備、防災機能強化(基本設計) ・伏見桃山運動公園野球場スタンド及びスコアボードの整備	文化市民局
⑤安心安全で、人にやさしい便利なまちをめざします		
18 地域防災支援プロジェクト	・伏見区自キ防災金ブロック会等の防災関係団体との連携 ・学区総合防災訓練(避難所運営訓練)への支援・協力 ・避難所運営マニュアルの作成支援	地域力推進室
19 くらしの安全・みんなの安心プロジェクト	・「安全・ゆったり本町通りの会」による「基本方針」づくりの支援	深草支所地域力推進室
20 大岩街道周辺地域の良好な環境づくりの推進	・まちづくり協議会による地区計画づくりの支援・説明 ・地域・学校等との協働による自然環境の保全・再生に向けた取組 ほか	深草支所地域力推進室
21 健康危機管理対策の充実	・各種感染症への対策及び食中毒等に対し、関係機関との連携強化 ・感染症予防についての啓発等	保健センター
22 深草墓園・宝塔寺山墓地再整備事業	・深草墓園・宝塔寺山墓地の一体整備によるバリアフリー化及び利便性の向上 ・新規墓園区画の造成	保健福祉局
23 バリアフリー化の推進	・JR深草駅及び京阪深草駅におけるバリアフリー化整備に対して補助金を交付 ・JR桃山駅周辺を対象とする桃山地区において、「バリアフリー移動等円滑化基本構想」を策定 ・桃山御陵前地区及び京阪藤森地区等の道路のバリアフリー化	都市計画局・建設局
重点方針(2) 区民の皆様の目線に立ったサービスの提供と区役所機能の強化を進めます		
24 市民サービスの向上	・来庁者への親切丁寧な対応と的確な説明 ・制度改正等について、受給対象者への漏れのない周知 ・ゲートキー/バーゲンの実施 ・情報発信機能(ホームページ等)の改修及び充実	全課
25 「京都市職員コンプライアンス推進指針」に基づく取組の推進	・「さようかん」推進委員会の実施 ・コンプライアンスに係る研修の実施 ・適正・公平な事務遂行と行政情報の適正な管理	全課
26 戸籍のコンピュータ化	・証明書発行の迅速化及び発行場所の拡大 ・戸籍情報管理における安全性の向上	市民窓口課、文化市民局
27 市税等徴収率の向上	・「はばたけ未来へ!京プラン」に掲げる(市税は本年度の)目標徴収率の達成 ・滞納整理計画に基づいた徴告、滞納処分の実施	税關係課 福祉介護課 支援課(支援保護課) 保険年金課
28 福祉ネットワークの充実	・伏見地域福祉推進委員会及びブロック部会における取組の推進 ・協働を実現する仕組みと生活課題に対応するセーフティネットの充実 ・地域の幹づくりの推進 ・要配慮者を守る福祉のコミュニティづくり	支援課(支援保護課)
29 生活保護受給者に対する自立支援の促進	・就労・自立支援の促進	保護課(支援保護課)

区民の皆様からの御意見・御提案をお待ちしています。

伏見区役所地域力推進室

〒612-8511 伏見区鷹匠町 39-2

TEL : 075-611-1295（直通） FAX : 075-611-4716

TEL : 075-611-1101（代表）

深草支所地域力推進室

〒612-0861 伏見区深草向畠町 93-1

TEL : 075-642-3125（直通） FAX : 075-643-7719

TEL : 075-642-3101（代表）

醍醐支所地域力推進室

〒601-1366 伏見区醍醐大構町 28

TEL : 075-571-6105（直通） FAX : 075-573-1505

TEL : 075-571-0003（代表）

伏見区ホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/fushimi/>

平成 26 年 4 月発行

平成26年度伏見区区民活動支援事業について

1 概要

(1) 目的

「伏見区基本計画～皆でつくる すむまち伏見～」(以下、「計画」という。)で定める伏見区の目標すべき将来像の実現を図るため、区民が主体的に実施するまちづくり活動を支援する。

(2) 対象団体

伏見区内でまちづくり活動を実施する団体・グループ

(3) 対象事業

対象団体が伏見区内で実施する事業のうち、計画の推進に資すると認められるもの

(4) 補助額

一般枠

上限60万円（必要事業経費の2分の1以内）

京都府地域力再生プロジェクト支援事業補助金を併用することで、自己負担の軽減が可能

小規模枠

上限10万円（必要事業経費の4分の3以内）

上限の範囲内で、まちづくり活動に参画したボランティアスタッフの労力を金額に換算し、補助金交付額に加算することも可能

(5) 募集期間

平成26年4月15日（火）から平成26年5月15日（木）まで

～制度説明会の開催～

日時	場所	参加者数
平成26年4月18日（金）19時～20時	醍醐総合庁舎	9名
平成26年4月21日（月）19時～20時	深草総合庁舎	15名
平成26年4月26日（土）10時～11時	伏見区総合庁舎	26名

2 予算・採択状況

予算額 8,400千円

過去の採択状況

平成24年度 申請 26事業（申請総額 7,483千円）

採択 19事業（採択総額 4,946千円）

平成25年度 申請 39事業（申請総額 10,504千円）

採択 33事業（採択総額 8,400千円）



平成26年度 「区民活動支援事業」募集のご案内

伏見区では、区民の皆さんが、自分たちの地域を暮らしやすい魅力あふれるまちにしていくため、区内でまちづくり活動を実施される団体・グループに活動経費の一部を支援する「伏見区区民活動支援事業」に取り組んでおり、3年目の今年度も対象事業の募集を行います。

募集期間

平成26年4月15日(火)～平成26年5月15日(木)

一般枠

上限60万円（必要事業経費の2分の1以内）

府の補助制度等を併用すれば、自己負担を軽減できます。

小規模枠

上限10万円（必要事業経費の4分の3以内）

規模が小さくても魅力的な活動を支援！自己負担を軽減できる制度もあります。

★制度説明会の開催★

- ①平成26年4月18日（金）19時～20時
場所：醍醐総合庁舎3階会議室
- ②平成26年4月21日（月）19時～20時
場所：深草総合庁舎4階会議室
- ③平成26年4月26日（土）10時～11時
場所：伏見区総合庁舎4階会議室



相談・問合せ先

伏見区役所地域力推進室まちづくり推進担当 (TEL611-1144)
深草支所地域力推進室まちづくり推進担当 (TEL642-3203)
醍醐支所地域力推進室まちづくり推進担当 (TEL571-6135)



1 支援対象となる事業

平成26年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）に伏見区内で実施する事業で、下記の伏見区基本計画取組目標のいずれかに該当するものです。

【伏見区基本計画の5つの取組目標】

- 1 循環型社会の要を担い、環境共生・低炭素社会の魁をめざします
- 2 自然と歴史がいきづく地域の魅力を学び、発信します
- 3 伏見力を活かし、「新しい京都」のまちづくりを牽引します
- 4 地域のコミュニティが人を育み、すこやかな暮らしを支えるまちをめざします
- 5 安心安全で、人にやさしい便利なまちをめざします

ただし、以下の事業は支援対象になりません。

- 学区まつりや学区民体育祭など地域で既に恒例となっている既存事業
- 政治・宗教・営利（活動）を目的とした事業
- 公の秩序又は善良の風俗に反する事業

2 支援対象となる団体

伏見区内で支援対象となるまちづくり活動を実施し、活動終了時まで責任をもって遂行できる団体・グループ。

ただし、申請できるのは、一団体・一群体当たり、一事業のみです。また、一事業に対して、最大2年間継続して支援を受けることが可能ですが。（年度ごとに申請が必要）

3 支援内容

①一般枠

補助金交付額は、必要事業経費（注1）の2分の1以内で上限は60万円です。京都府の地域力再生プロジェクト支援事業交付金制度等を併用することで、自己負担を軽減できます。また、事業完了前に補助金交付額の2分の1をお支払いすることも可能です。

《申請例》府地域力再生プロジェクト支援事業の一般(公共)プログラム(3分の1補助)と併用する場合

(必要事業経費)

150万円	区60	(府50)	自40
120万円	区60	(府40)	自20
60万円	区30	(府20)	自10
30万円	区15	(府10)	自5

府制度との併用により、自己負担が軽減されます。

（区=区民活動支援事業補助金 府=地域力再生プロジェクト支援事業交付金 自=自己資金等 単位:万円）

～京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金について～

京都府においても、皆さんの自主的なまちづくり活動を応援しています！

詳細は、京都府府民生活部府民力推進課（TEL414-4452）にお問合せいただくか、京都府ホームページを御覧ください。

地域力再生交付金 検索



②小規模枠<新設>

補助金交付額は、必要事業経費（注1）の4分の3以内で上限は10万円です。ただし、上限の範囲内で、採択事業に参画するボランティアスタッフの労力を金額に換算することで、自己負担を軽減できます。

《申請例》

(必要事業経費)

10万円	区7.5	自2.5	区2.5	ボランティアスタッフの労力を金額に換算し、自己資金に充当できます (例：500円×5名×10時間=2万5千円)
15万円	区10	自5		※補助金額が上限の10万円に達するため、補助金の加算不可

(区=区民活動支援事業補助金 自=自己資金等 単位:万円)

《労力の換算方法》

採択事業に参画する無償のボランティアスタッフの労力を、一人1時間当たり500円として換算します。

(注意事項)

- ア 金額換算の対象は、事業を実施する団体・グループの運営に参画する無償のボランティアとします。採択事業の運営に参画しない一般参加者（来場者等）は含まれません。
- イ 労力換算に基づいて積算した補助金交付を申請する団体は、申請書提出の際に、「労力換算額算定書」（提出書類④）を提出していただきます。
- ウ 補助金交付額が上限の10万円に達する場合は、労力換算による補助金の加算はできません。

注1 *必要事業経費に該当するものの例*

- (1) 事業活動に必要な資材及び消耗品等の購入費用
- (2) パンフレット、チラシ等の広報物の印刷、製作、発送に要する費用
- (3) 活動の記録に要する費用
- (4) 会場使用料及び機材等の賃貸借にかかる費用
- (5) 会場設営等事業活動に直接必要な役務にかかる費用
- (6) ボランティア保険等の事業活動に直接必要な保険の掛け金
- (7) 事業活動として行う講演会等の講師及びアドバイザーへの謝礼金
- (8) 事業活動に参画する講師、従事者及びボランティア等の交通費
- (9) その他区長が必要と認める費用

必要事業経費に該当しないものの例

- (1) 平成26年3月31日以前又は、平成27年4月1日以降の事業に要する費用
- (2) 団体の運営に係る経常的な経費（電話代・光熱水費・ガソリン代などのうち事業活動に必要となる経費と区分ができない経費も含む）
- (3) 団体構成員への人件費、謝金（講師としての謝金など専門性を有するものは除く）
- (4) 個人給付にあたる経費（抽選会の景品・参加賞等）
- (5) 食糧費（飲食・打ち上げ・レセプション等）ただし講演・会議用のお茶、水類を除く。
- (6) 領収書が無い等、支出の根拠が確認できない経費
- (7) 用途が不明な経費
- (8) その他区長が適当と認めないもの

4 選考方法

学識経験者、地域団体、公募委員で構成される「区民活動支援事業審査会（平成26年6月下旬開催予定）」において、事業内容の審査を行います。その審査結果を踏まえ、伏見区長が支援事業を決定します。

審査会では、一般枠は、申請団体によるプレゼンテーション（事業説明）がありますが、小規模枠は、書類審査のみとなります。なお、プレゼンテーションについては、一般公開します。

5 応募方法

申請書等に必要事項を御記入いただき、お電話で御予約のうえ、活動区域の区役所・支所のまちづくり推進担当の窓口に5月15日（木）までに提出してください。

【提出書類】

①～④については、区役所・支所・出張所で様式を配布しています。
又は伏見区ホームページ（<http://www.city.kyoto.lg.jp/fushimi/>）からもダウンロードができます。

- | | |
|-----------|----------------------------|
| ①交付申請書 | } 京都府地域力再生プロジェクト支援事業と併用の場合 |
| ②事業計画書 | |
| ③収支予算書 | } は、府様式の写しの添付でも可 |
| ④労力換算額算定書 | ：小規模枠で該当する場合のみ |
| ⑤団体等の規約 | |
| ⑥団体等の役員名簿 | |

6 事業終了後の手続き

事業終了後、速やかに所定の報告書を提出してください。

ただし、平成27年3月に事業を実施する場合等、平成27年3月31日までに報告書を提出することが困難である場合は、別途御相談ください。

採択事業に関する申請書、収支報告書など関連書類は、事業が完了した翌年から5年間保存し、伏見区長から閲覧を求められた際には、これに応じなければならないものとします。

7 その他

- 事業の紹介やイベント告知等については、区庁舎でのチラシ類の配架や、区広報媒体の活用により支援します。また、必要に応じて、取材や記事・写真の提供等の依頼をする場合があります。
- この支援事業を広く周知し、活動の輪を広げていくため、採択事業の印刷物等を作成される際には、ロゴマーク（右図）又は「この事業は伏見区区民活動支援事業の補助を受けています」の文言を必ず掲載してください。
- イベント等を実施する際には、貸与するのぼりを掲出してください。





区民が主役の まちづくり!

伏見区区民活動支援事業活動事例集
(平成24年度～25年度)



伏見区役所・深草支所・醍醐支所

～はじめに～

「伏見区区民活動支援事業活動事例集」は、平成24年度からスタートしました同事業の取組をより多くの皆様に知りたいことを目的として、また、この2年間に取り組まれた団体の活動報告を兼ねて作成しました。

「自分たちも伏見区内で何か活動ができないか」とお考えの皆様の参考になれば幸いです。

＜目次＞

1. 伏見区区民活動支援事業概要 ······ P1
 2. 審査委員長からのメッセージ ······ P2
 3. 採択事業団体の取組 ······ P3～P27
- (1) 活動団体へのインタビュー

団体名	事業名	掲載頁
醍醐学区自治町内会連合会	世界遺産・醍醐寺周辺のまちづくり（平成24年度の取組）	3～4
桃山プロジェクト	桃山プロジェクト（平成25年度の取組）	5～6
伏見まるごと博物館	伏見まるごと博物館（平成24～25年度の継続取組）	7～8
横大路まちづくり協議会	草津湊鱧海道祭り（平成24～25年度の継続取組）	9～10

(2) 平成24年度の取組

団体名	事業名	掲載頁
フシミシュラン	フシミシュラン（ガイドブック）	11
伏見環境チーム	大岩山の魅力を体感する自然調査プロジェクト～里山の自然に触れて学ぼう！～	11
醍醐コミュニティカフェ実行委員会	醍醐コミュニティカフェ（醍醐大学）	12
濃縮風景採集民	0.3mmのものがたり～ピンホールカメラでふしみをとろう～	12

(3) 平成25年度の取組

団体名	事業名	掲載頁
淀南地誌の会	淀南地域の歴史本作成作業	13
小栗栖宮山学区社会福祉協議会	高齢者サロン活動「茶房ありがとう」	13
淀みず車の会	淀の歴史、文化を広めるための紙芝居制作・公演事業	14
池田東自治町内会連合会	災害に強いまちづくりをみんなの力で	14
I.m.a	おやこでアートを楽しもう	15
新町三丁目まちづくり検討委員会	ここちよい新町三丁目のまちづくりに向けて	15

団体名	事業名	掲載頁
伏見歴史顕彰会	伏見のヒーロー伝説とまちづくり計画	16
桃山南学区自治会連合会	桃山南学区安全マップ作成	16
伏見クラブ	おおぞら少年少女ラグビーチーム中学生になっても スポーツ続けようプロジェクト	17
伏見まちかど音楽隊	伏見まちかど音楽隊	17
向島二の丸学区防犯パトロール隊	きずなづくりニュータウンで防犯活動 新聞及び防 犯マップ作り	18
田中宮市営住宅自治会	竹田南部あんしん安全まちづくり事業	18
ゆるキャラで町おこし実行委員会	ゆるキャラで町おこししよう	19
京都市伏見地域活性化プロジェ クト～学びで観光の質向上を～	みんなで楽しむ伏見の新 sake スタイル提案	19
父活 PROJECT	父活 PROJECT2013 「ものことば」	20
みどりの会伏見桃山	里山とクリーンエネルギーの再生	20
深草・龍谷町家コミュニティ	伏見の「知の資源」を伏見で活かそう！	21
春日野自治町内会連合会	安心安全の「まちづくり」活動	21

(4) 平成24~25年度の取組

団体名	事業名	掲載頁
醍醐西自治町内会連合会	地域のコミュニティ活性化の祭典！「秋の豊穂祭 り・子供みこし巡行」	22
向島駅前まちづくり協議会	「向島駅前まちづくり憲章」の推進事業－健康福祉 のまちづくり調査事業－	22
京・ふかくさ・藤森桜並木を愛でる会	2014・桜ゆらぐ疏水の街 ふかくさ・元気計画	23
伏見歩き隊	伏見の歴史と文化を学ぼう！～まちゼミ＆まち歩き～	23
「伏見のヨシ原、再発見！」プロ ジェクト	「伏見のヨシ原、再発見！」プロジェクト	24
ここはづ市実行委員会	地域から広げる手作り市・久我・久我の杜・羽東師 「ここはづ市」	24
醍醐石田まちづくりプロジェ クト実行委員会	醍醐石田まちづくりプロジェクト	25
久我・久我の杜・羽東師地域ま ちづくり協議会	久我・久我の杜・羽東師地域における住民主体のま ちづくり	25
深草藤袴の会	深草のまちで育む藤袴プロジェクト	26
京都深草ふれあい隊 竹と緑	深草産・竹紙うちわの技術・文化の継承プロジェクト	26
人づくり21世紀委員会 伏見東人 づくりネットワーク実行委員会	第2回醍醐灯りのハーモニー～みんなのこころに灯 りをともそう～	27
山科醍醐こどものひろば	醍醐のこどもをつなぐ「人形劇フェスティバル」	27

*申請順に掲載しています。((4)は平成24年度の申請順)

4. おわりに（編集後記）・・・・・・・・・・・・ P28

1. 伏見区区民活動支援事業概要

この事業は、「伏見区基本計画～皆でつくる すむまち伏見～」の推進に当たり、区民の皆さんのが、自分たちの地域を暮らしやすい魅力あふれるまちにしていくために、区民主体で取り組まれるまちづくり活動経費の一部（事業経費の4分の3以内、上限額30万円）を支援するものです。

採択事業は、「伏見区区民活動支援事業審査会」委員による審査を経て、伏見区長が決定します。

平成24年度

募集期間 平成24年5月16日(水)～平成24年6月29日(金)

応募状況 (1) 申請事業数 26事業

(2) 採択事業数 19事業

平成25年度

募集期間 平成25年4月15日(月)～平成25年5月15日(水)

応募状況 (1) 申請事業数 39事業

(2) 採択事業数 33事業

(前年度からの継続分14事業を含む)

2. 審査委員長からのメッセージ

平成 24 年度から京都市において区民提案・共
汗型まちづくり支援事業予算が創設され、各区に
において区民が主役のまちづくり活動を応援する
「区民活動支援事業」がスタートしました。

伏見区においても、自分たちのまちを元気にす
るような活動を展開していただく最初の一歩を
支援するという趣旨で募集を開始しました。予想
をはるかに超える数の応募があり、公平に審査す
るため、学識者・NPO 団体・地元各種団体・行政関係者で構成する
審査会を開催し、応募者によるプレゼンテーションをお聞きした後、
私も含めた 11 名の委員で審議しました。

どの事業も多彩な内容で創意工夫に満ちており、公開プレゼンテ
ーションもそれぞれ工夫が見られ、「自分たちのまちは自分たちの手
で良くしていく」という熱意がひしひしと伝わってきました。審議
の場では、「全事業採択できないものか」という意見が各委員から出
るほど、迷いに迷ったものとなりました。私も同様の思いでしたが、
予算に限りがあることから、数を絞り込み、最終決定者である区長
にお伝えさせていただきました。

事業申請数も年々増加しており、皆様のまちづくり活動の輪が広
がってきてることに喜びを感じております。

事業実施に当たっては、P(Plan)⇒D(Do)⇒C(Check)⇒A(Action)
が大切であります。事業実施前、実施途中、実施後とその都度、振
り返っていただき、見直しをされることで、更により良いものにな
ると思います。

今後とも伏見区のまちづくりに御理
解、御支援を賜りますようよろしくお
願いします。



審査委員長
加藤 博史
(龍谷大学
短期大学部教授)



審査会の様子

3. 採択事業団体の取組（24 は24年度実施、25 は25年度実施）

（1）活動団体へのインタビュー

世界遺産・醍醐寺周辺のまちづくり <醍醐学区自治町内会連合会> 24

世界遺産醍醐寺を抱く醍醐学区として、国内はもちろん、世界各国から観光に訪れる多くの人々に、その素晴らしさと感銘を与えるには、まず環境の整備であると考えました。そこで、醍醐小学校校門横の柵に「ふるさと醍醐」とタイトルを付け、同小学校児童に「醍醐の夢と誇りを絵に描きませんか！」とアイデアを募集しました。子ども達が美しいふるさと醍醐地域に誇りを持ってほしいと思い、桜や太閤行列等、四季折々の伝統行事の風景をモチーフに6枚のパネルを作成し、下面には、芝桜を植付けました。



取材に快く応じてくださった板谷会長（右）と、林校長先生（左）



事業によってきれいに整備された醍醐小学校前の小川の姿

活動インタビュー

■醍醐寺に面する小川を地域の力できれいに

世界遺産、醍醐寺の懷に抱かれるようにある醍醐小学校。醍醐学区自治会町内会連合会では、その前を流れる小川をきれいにしようとする活動に取り組まれてきました。この取り組みについて、醍醐学区自治町内会連合会の板谷会長と醍醐小学校の林校長先生にお話を伺いました。「学校の前の小川が、土砂がたまって雑草だらけになっていたんですね。醍醐寺に来る観光客も多いのに、印象が良くないのが気になったのです。そこで、川を見直してきれいにしようと。醍醐は観光の名所であり、みんなが訪れて、ちょっとでも和んでもらえるようにしたらどうだろう。そして地域の子どもたちにも、醍醐のまちを見直してほしい、愛してほしいと思ったのです」

このような想いから始まった活動、しかし小川とはいえ河川の改修には大きな費用がかかります。その時、偶然、区民活動支援事業で補助金が出ることを知り、実施に踏み切ったそうです。「これがなかったらできなかつたですね」と会長は語ります。溜まった土をダンプで取り除き、今後泥が溜まるのを避けるために川底に約10トンの石を敷き詰めました。また、水が溜まりやすいようにダムの要領で段差を作っています。「近所に居を構える高齢者のお話では子どものころは魚も一杯いました、それを復元するために川を綺麗にしたいと考えたのです。渇水期になると石が現れるから、少しでも深くした方がいいだろうと」。

作業には自治会やPTAなどの地域団体に加え、小学校の協力が大きな力になりました。また、整備後も地元の子どもたちが、小学校長の指導のもとに住民の方より頂いた小魚とかザリガニを児童が放流。醍醐への愛着を高めるため子どもたちが原案をデザインした「ふるさと醍醐」というパネルが飾られたりするなど、これまで以上に地域に親しまれるようになっています。また、整備される前は多かった川へのごみのポイ捨ても整備後は激減するなど、好ましい変化が起こっているそうです。



整備前



整備中



整備後

■やるなら面白く、楽しんでやりたい！

しかし、こういった事業は大変です。やりたくてもできないところも多い中、なぜ醍醐学区ではこれが出来たのでしょうか？醍醐学区では、まず地域のニーズを知るために、板谷会長が就任された際にアンケートを実施するところから始めました。

「アンケートは2000世帯中500件ほど返ってきました。いろんな声が上がりました。その中で人気のあるテーマをピックアップして、同好会という形で集まってやっていくことにしたんです」

板谷会長は、自治会や各種団体の事業と並行する「同好会」という形で呼び掛け、このアンケートの中で明らかになったテーマごとに集まりを作っているそうです。例えば、ゴルフ好きの集まる同好会や、地域に多い独身高齢男性の交流のきっかけづくりを目指す“男の料理教室”同好会などがあります。これらの同好会の一つに、前述の小川の整備事業のさきがけとなる集まりもありました。

「先日、地域の奥さんから声をかけられたんです。“今までいろんな会長さんを見てきたけど、今度の会長はいろんなことをしてくれて楽しい”と言われました。とてもうれしくて、これは続けなければ」というように会長は同好会活動について語ります。この同好会活動は、今後も取り組むテーマごとに増やしていく予定だそうで、まちの散策会や、灯篭会の開催、新聞社訪問や公共施設の見学ツアー・最低料金によるJR琵琶湖一周日帰りの旅などのアイデアもあるそうです。

とはいえる、これだけの活動は一人ではできません。「仲間をつくるきっかけづくりを今年はやりたいと思っています」と板谷会長は語ります。「大変ですが、誰かに“やつといて”と丸投げしたのでは、みんなに協力もしてもらえないですから」

■醍醐学区を支えるもの…「楽しんで取り組む」と「醍醐の中核であるという誇り」

これだけ精力的な活動をどうして続けていけるのでしょうか？板谷会長は次のように語ってくれました。

一つ目は「楽しんで取り組む」という気持ちです。「地域の会長って、誰でも“なれる”けど、誰でも“できる”ことではない。苦痛に感じる人も多いです。でも私は、同じやるなら、自分も楽しまなくては損だと。人の嫌がることを逃げてもしょうがない、自分から好きになっていきたい。そしたら何をしても苦痛に感じない」

そしてもう一つ大事なのは、「醍醐の中核であるという誇り」です。現在の醍醐地域には10の小学校がありますが、宅地造成が進む前は、醍醐小学校が唯一の小学校でした。そのため、少し年配の方となると、みんな醍醐小学校の卒業生になるのです。「昔は小栗栖から30分くらいかけて草履で通ってはったらしいですよ」と林校長先生は語ります。そのため、「古くからお住まいの地域の方は、醍醐小が原点という誇りを持っています。だから、醍醐小が綺麗になるということは醍醐全体にとって母校が綺麗になるということでもあるんです」という文化があるそうです。

そんな文化について、板谷会長は「醍醐の良さを広めたい。せっかくこんな良い土壤があるので、みんなが気にせず暮らしていることがもったいないな」と語ります。これが、小川の整備事業をはじめとした、精力的な地域活動を支える原点になっています。

■この事業のこれから

しかし小川の整備事業は、一度やってしまえば終わりというものではありません。「川は手入れしないとあっという間に汚れてしまいます。日ごろの清掃は小学校がしてくれますが、地域でも継続的に取り組んでいます」と板谷会長が語るように、きれいな景観を守り、育んでいく活動はこれからも続いていきます。

整備活動の一環として、この小川に隣接する石垣に芝桜の苗を200株植えたそうです。「今年の春には綺麗に咲くはずです」と楽しそうに語る板谷会長。地域の力で育んだ、きれいな川と、その上に舞う桜、という風景は、きっと格別の美しさを私たちに見せてくれるでしょう。

桃山プロジェクトは、かつては桃の名所だった伏見桃山地域一体に、桃の花が春に咲きほころぶようなまちになることを目指して平成24年に生まれた団体です。現在、伏見に縁のある人メンバー約20名が、主に伏見の桃の歴史研究、桃の植樹、植樹後の管理を行っています。「伏見桃山を再び桃香と色彩あふれる桃源郷に」を合言葉に、3年間で1,000本の桃の木を植えることを目標としています。



伏見桃山で桃を植樹するメンバー



桃を植樹するようす

活動インタビュー

■できることから始めよう

「『桃山』という地名なのに、桃の木を見かけないのはどうしてなんだろう?」と、ふと思ったことが活動を始めたきっかけです。」と桃山プロジェクト代表の藤崎さんは話してくれました。

「伏見桃山の名前の由来を調べるうちに、江戸時代には『吉野の桜か伏見の桃か』と言われるぐらい桃見の名所だったことが分かりました。」と語る藤崎さんは、それならば「桃山エリアに桃の木が植えられたら、景観も良く歴史も感じられて素敵だな」と思い、平成24年度伏見区区民活動支援事業（以下、支援事業）に応募しました。

ところが、結果は採択されませんでした。当時を振り返ると「企画が弱かったのかな。」と話す藤崎さんですが、そこであきらめずに「お金がなくてもできるところからやろう」と気を取り直しました。

■最初は仲間づくりから

平成24年6月、伏見区役所が主催する「伏見をさかなにざくばらん」（以下、ふしざく）というまちづくり交流会に参加しました。「ふしざく」の場で、藤崎さんが「桃山プロジェクト」の構想を語ると、「私もやってみたい」との声が聞かれました。「『ふしざく』に顔を出したら、地元に暮らす仲間や大学生の仲間ができて心強かった」と藤崎さん。チームを作り、平成25年5月までに公園や学校など計7か所に30本の桃を植えました。

■活動の醍醐味と課題

「ふしざく」での経験を経て、再び平成25年度の支援事業に応募し、採択されました。

「桃山プロジェクト」の活動では、「桃からひも解く歴史を調べることも楽しいし、桃の植樹の話を聞いた伏見桃山地域の人たちが『それはいい話だね』と喜んでくれることがうれしい」と藤崎さん。

一方、住宅地の多い伏見桃山では、植樹場所を見つけるのは難しく、また、植樹した桃の木に万が一害虫がついて苦情がでたら、という辺りも頭を悩ませることの一つだそうです。1本2,000円掛かる桃の木を1,000本植えるための費用を捻出しなければならなかったり、植樹するための事務手続きを担えるメンバーも不足していたりと、活動を続けるうえでの課題も抱えています。

■桃をテーマに、地域に根ざした活動を

伏見桃山に暮らす人たちに活動を知ってもらうために、チラシを作り、活動拠点にしている雑貨屋『ピアーズンピアーズ』で事業説明会を毎月開きました。周知活動を行いつつ、植樹場所を見つけた結果、平成25年12月までに約120本の桃が植えられました。協力してくれる地域の方も増え、学生もたくさん集まっていました。

「面倒なこともあるけれど、まちに自分の居場所ができるし、まちの人たちも喜んでくれる」のが活動の魅力だと語る藤崎さんは、「支援事業2年目は、仲間と一緒に、桃を使ったスイーツコンテストや植えられた桃をめぐる散策会、そして桃の花が咲く時期に桃祭りも開催してみたい」と教えてくれました。

■参考

桃山プロジェクト

活動拠点『ピアーズンピアーズ』のHP：<http://www.piersnpeers.com/>

桃山プロジェクトのHP：<http://www.momopro243.com/>

Facebook：<https://www.facebook.com/momopro243/info>



古地図で桃の植樹状況を確認



子ども達と一緒に行われた植樹

伏見まるごと博物館は、伏見の自然・歴史・文化・生活・産業等を、住民自らが探求し、次世代に伝えることを目的として、調査、展示、シンポジウム、まち歩きなどを行っています。まちを知ることで愛着が湧き、誇りにつながると考えるメンバーが、平成23年度から活動しています。博物館を建設することを目指すのではなく、特色豊かな“伏見の普通”を、できるだけ現地で再発見し、現地で保存し、それを内外に紹介しようとしています。



夜や土日を中心にメンバーが議論を重ねます



催しにはたくさんの人を迎えます。右端が北澤さん

活動インタビュー

■通称「まる博」(マルハク)の活動

伏見まるごと博物館（通称「まる博」）は、平成23年度に、伏見のまちを愛する人、伏見のまちをもっと誇りあるまちにしたい人達が集まって、活動を開始しました。リーダーの北澤さん曰く、「まるごと博物館とは、まちのお宝を一か所に集めるハコモノを建てる活動ではありません。伏見とは、どこにでもありそうな地方都市ではなく、個性にあふれ、土地への誇りを持つ地域のはずではないか。皆さんがそんな伏見を訪れ、まちの人々と触れ合うことで、今あるかけがえのない地域の資源と一緒に大事にしていこう、という考えに基づいているんです」とのこと。調査や催しを通して、伏見の先達を敬い、若者世代の地域での社会参加を促すことも目指しています。区民活動支援事業での2年間は、よちよちの任意グループだったまる博が、多くの方々と出会う中で成長し信頼を得るための期間になりました。

■試行錯誤の2年間

平成24年度は、「人がまちを訪れる」ところを大事にしようと、同じエリアで、異なった二つのまち歩きを実施しました。伏見に暮らす人にも、初めて伏見に来る人にも参加してもらい、たくさん感想をいただきました。個性的なメンバーが持つ多様な価値観や地元の方々の反応などを振り返ったうえで、まるごと博物館（以下、まる博）の活動で探求していきたいテーマを出し合いました。まちの面白いこと、奥深いこと、残していくなかかんこと、いろいろ出てきた中で、「まる博はこんなことを扱っていきたいので、皆さんも一緒にいかがですか」というお披露目とお誘いのために、伏見区総合庁舎4階の伏見青少

年活動センター等でオープニングイベントを開きました。伏見全域が端までちゃんと載った大地図を囲んだ会場では、伏見が起源の事物を探る展示、80代の方々のお話からまちのにぎわいを再現しようと試みたワークショップ、伏見のソウルフード粕汁を調査した結果からレシピを作った「粕汁食べ比べ」、設立経緯を紹介して参加者と共に期待を語るフォーラム、などを行いました。



変わりゆくまらのそこかしこがフィールドです



豊かな伏見のつながりを語る「水の仕事」

平成25年度は、改めて活動のコンセプトを話し合い、年間統一テーマを「水」と定め、まる博ならではの「大事」かつ「今こそ」のプロジェクトを立ち上げました。

一つは「水の匠」プロジェクト。伏見で活躍する染織史家吉岡幸雄氏のドキュメンタリー映画「紫」を伏見で初上映し、伏見に根ざした農を営む山田ファームの山田豪男さんとの対談を行うイベント「水の仕事」を実施しました。準備の段階で関わりの深い向島地域に何度も出かけ、当日は、丹波橋の町家をお借りして、満員の参加者と共に伏見の奥深さに耳を傾けました。

もう一つは、「水との共生」プロジェクト。9月の台風18号を契機に、川との付き合い方を先輩達に学ぼうと、桂川、宇治川流域を歩き、地元の方々に、こわい川との付き合い方を、楽しい川との関わりと共にお聞きしました。これらをもとに、2月16日には、「消えた水辺の暮らし」と題したシンポジウムを行いました。

まる博では、今後、「水との共生」プロジェクトの区内数か所での巡回展示、水をテーマに青少年グループと共に催す本の紹介イベント「ピブリオバトル」などを計画しています。

■足元を見つめながら歩む“地域のプラットフォーム”に

たくさんの市民活動がある中で、なぜ新たに集まってこうした活動をするのか。「自分の足元の地面はどうなっているか知りたい。今知るための行動をしなければ」という危機感があります。そして、何かを見つけた喜びや知った魅力を、一人でも多くの人に伝えたいのです」とリーダーの北澤さんは言います。ほとんどのメンバーが、仕事を持つ現役世代。あちこちの市民活動や地域活性化でリーダーを担う人達が、忙しくても「これはやらなあかん」と集まって進める活動です。将来的に、伏見の奥深さを蓄積し発信するプラットフォームの役割を果たしていきたいとのことでした。

横大路まちづくり協議会は、平成22年の「第1回横大路桂川・草津みなとフェスティバル草津湊鱧海道祭り」(以下、草津湊鱧海道祭り)をきっかけに、平成24年に生まれた団体です。横大路地域の環境改善と、子どもから大人までが参加し、まちが一つになることを目指した「草津湊鱧海道祭り」の企画・開催を中心に活動しています。

平成24年度は、「第3回草津湊鱧海道祭り」として、子ども向けの自然環境学習会や「鱧と鮎を学ぼう」というテーマで講演会を開きました。平成25年度は、桂川河川敷で「第4回草津湊鱧海道祭り」を開き、2,000人以上の参加がありました。



「まちづくりは夢がありますね」と語る岡井さん（左）と榎さん（右）



第4回草津湊鱧海道祭りの様子

活動インタビュー

■人の縁、川の縁がつなぐ鱧海道祭り

横大路地域では、平成22年から毎年「草津湊鱧海道祭り」を行い、横大路と桂川の関わりについて学ぶ機会を設けながら、3年に一度桂川河川敷で大規模な「草津湊鱧海道祭り」を開催しています。

「祭りを通じて地域の輪ができ、地域の良さをみんなで分かち合えるようになった」と桂川・草津湊鱧海道まつり実行委員会で委員長を務める榎さんが語るとおり、祭りには、自治連合会を始め、各種団体、行政、学校、農協、環境関連会社で構成される「千両松地域エコ協議会」や酒造会社などの地域の企業が協力し合い、祭りを企画しました。

企画担当の岡井さんは、「企画会議で誰かが提案すれば『無理だよ』などと言わず、実現するにはどうしたら良いかとみんなで前向きに考える雰囲気があります」と教えてくれました。

その結果、平成25年10月に行われた「第4回草津湊鱧海道祭り」では、地元ガイドによる「横大路遺跡散策会」を開いたり、区民活動支援事業に採択されている「淀みず車の会」の協力を得て、横大路の歴史を描いた紙芝居が披露されたり、京都水産物商業協同組合による加工水産物の販売、日本食育者協会による鱧の調理実演が行われたりと、様々な企画が実現しました。



横大路の歴史を伝える紙芝居



開会式での吹奏楽演奏

■家族ぐるみで楽しめる祭り

「実行委員会では、子どもが参加しやすい祭りになるよう工夫しました。『わたしの好きな横大路』をテーマにした作品展示では、大人だけでなく子どもからの作品も集まればとの思いから学校や児童館に声を掛けたところ、子ども達が横大路の絵を描いたり、まちの良さを模造紙にまとめたりした作品が並びました。それを見に来た家族の姿で祭りが賑わいました」と岡井さんは語ります。

■苦楽をともに、祭りでつながる横大路

「草津湊體海道祭り」の開催に当たって、苦労したのは会場整備だそうです。会場となる桂川河川敷の草刈りをした直後に、2度の台風で会場が冠水してしまったのです。「上流から流れついて溜まった大量の土砂やごみを前に、委員の多くがめげそうになりましたが、片づけを終えて、青空が広がる祭りの朝を迎えた時には、今までの苦労が吹き飛びました。」と榎さん。当日はスタッフ280名が協力し合ってブースやステージ、会場運営などを担当し、子どもも大人も祭りを満喫する1日となりました。

「3年後の平成28年も草津湊體海道祭りを開きたい」と榎さんと岡井さんは口をそろえます。横大路地域の活性化について住民と話し合いながら、3年ごとに祭りがあるという楽しみを、まち全体で共有するようなまちづくりが今後も行われていくでしょう。



晴天に恵まれた当日



羽束師橋から会場を眺める

(2) 平成24年度の取組

フシミシュラン(ガイドブック) 『フシミシュラン』

24

伏見を訪れる人を増やし、まちのにぎわい作りの促進、地域コミュニティの活性化、まちづくりの活性化を目指して、伏見区内の観光名所、各種店舗を分かりやすく紹介するガイドブックを作成し、配布するため、伏見区内の様々なお店を取材しました。まだまだ知らないお店や名所があることが分かりました。他府県から来られた方に、伏見の良いところを知ってもらえる手がかりの第一歩になったらと思いました。今も継続して取材したお店をブログで情報発信しています。これからもマイペースで楽しく続けていきたいと思います。



作成した冊子がすぐになくなってしまいました。
取材したお店の方にも喜んでいただきました。



大岩山の魅力を体感する自然調査プロジェクト ～里山の自然に触れて学ぼう！～ 『伏見環境チーム』

24

地域住民・関係団体・行政の力で、「不法投棄ごみの山から美しい里山へ」と蘇った大岩山の自然を後世に残すことを目的として、生息する動植物に関する調査資料の作成や子ども自然教室（自然観察会）を実施しました。それらを通じて、里山の魅力を学ぶ場を提供しました。

また、大岩山の散策路に動植物の解説看板を設置し、訪れる人々に里山の魅力を発信しました。



里山の魅力の発信
や里山の魅力を学
ぶ場を提供できま
した。



醍醐コミュニティカフェ(醍醐大学) 《醍醐コミュニティカフェ実行委員会》

24

将来、醍醐・小栗栖・石田地域において、まちづくりやコミュニティ作りの活動を行う人に向けて参考となる勉強会を開き、ウェブ上でアーカイブ化を行いました。醍醐地域の大部分を占める「団地」におけるコミュニティ形成や解決すべき課題を抽出し、ワークショップ等によって課題の解決策やアイデアに昇華し、レポート形式の記事をネット上に掲載しました。



参加者の中から、醍醐の地域で活動を行い情報発信を始めるコミュニティリーダーのモデルが生み出されることを目指しました。



0. 3mm のものがたり ~ピンホールカメラでふしみをとろう~

《濃縮風景採集民》

24

みんなが持っている大切な風景、自分だけの風景、そんな風景を集めていきたいとの思いから、立命館大学の院生と講師を中心に活動をスタートさせました。

伏見での生活に視点をおき、日常の私的な「風景」へのまなざしに対する意識向上を目的として、夏と秋の2回、ピンホールカメラ（針の穴（ピンホール）をレンズの代わりにしているカメラ）の制作、撮影、物語付けというワークショップを開催しました。また、冊子「0.3mmのものがたり」を発行するとともに、「伏見区区民文化祭」に作品を出品しました。



時間をかけて写真を撮り、物語を付けていく中で、今出会った風景に愛着が湧いたとのお声をいただきました。



(3) 平成25年度の取組

淀南地域の歴史本作成作業 <淀南地誌の会>

25

淀南地域は、江戸時代に美豆村としてまとまっていましたが、明治時代に木津川、淀川の付替えで地域の繋がりが地形的に分断され、住民の結束に打撃を受けました。その影響は現在にも至っているものの、その事実を知る者は、80歳以上の高齢者で、人数も少なく、記憶も薄れてきており、忘れられようとしています。そこで、地元の有志の者が会を結成し、佛教大学の植村善博先生の指導を受けながら、歴史の本を作成することにしました。



完成した冊子は、地域諸団体や学校等に配布する予定です。住民の地域への関心と町づくりの振興に貢献できればと思っています。



高齢者サロン活動「茶房ありがとう」

<小栗栖宮山学区社会福祉協議会>

25

小栗栖宮山学区では、小栗栖宮山小学校「すこやかサロン」を拠点に、高齢者の見守りや居場所づくり活動を行っていますが、学区南部地域の高齢者までは網羅できていない現状にあります。このため、南部にある府営小栗栖西団地集会所に、高齢者が気軽に安心して集える喫茶型サロンを新設し、定期的に開催しました（毎月1回）。高齢化が進んでいる同学区において、独居高齢者の孤立を防いで地域の絆を強めることができると考えています。



地域の一人一人をつなぐ
拠点になればと考えています。



淀の歴史、文化を広めるための紙芝居制作・公演事業

25

《淀みず車の会》

淀地域の歴史や文化、自然などを紙芝居や小冊子等の資料にして、地域の皆さんに伝えていくことを目標としています。淀に伝わっているものを再発見し、埋もれていたものを発掘し、それらを紙芝居にして、広く地域の皆さんに郷土のことを知ってもらおうと、今年度は、「知ってる？淀・・・」と「街道をゆく・・・鳥羽街道・・・」の二作品を完成させました。3月には次作品が完成する予定です。完成した紙芝居は、淀周辺地域で、老人会、病院、社会福祉協議会、小学校、保育所等で公演を行っています。



読み手の養成とスキルアップが課題ですが、新聞社からの取材、記事掲載が活動の励みになっています。



災害に強いまちづくりをみんなの力で

25

《池田東自治町内会連合会》

池田東自治町内会連合会では、毎年「総合防災訓練」を実施していますが、今年度は、新たに「避難所運営訓練」を実施しました（9月22日実施）。

実施に当たっては、実行委員会を立ち上げ、大災害発生時の避難所における各自の役割を決め、スムーズに運営できるよう準備しました。また、「災害に強いまちづくりをみんなの力で」をスローガンとしたポスターを作成し、全学区民を対象に、災害に対する意識啓発や訓練参加の呼びかけを実施しました。



学区の7町内会で組織された自治町内連合会会員1,500世帯、4,500人の方を対象に実施しました。



おやこでアートを楽しもう <I.m.a>

25

伏見区は、未就学児の母親や移住者などと地域との接点が少なく、安心して集まる場所が少ないように感じました。そうした方々と地域の方とのコミュニケーションの機会が増えれば、暮らしやすい安心感のある地域になるのではないかと思いました。そこで、伏見に暮らす子育て世代を対象に、アートを通じて交流を深め、表現する場を提供する取組みを行いました。週に1回、計50回程度の講座を実施し、月に1回、親子で参加できるアートイベントを行いました。大手筋商店街の企画にも講師として参加し、共にイベントを行いました。



講座は、口コミで広がり、リピーターを獲得することができました。日頃、学校の授業では学べない内容を意識したため、子どもたちも楽しんで参加していただきました。スタッフが少なかったので、今後は、受け入れ体制の強化をしていきたいと思います。



ここちよい新町三丁目のまちづくりに向けて

《新町三丁目まちづくり検討委員会》

25

新町三丁目では、歴史的な町並みと調和した住みよい環境の維持、既存住民の地域の絆の再認識及び新住民との交流が大きな課題になっています。その状況を踏まえ、町内会の中に、まちづくりの企画・立案を行い、町内会や関係機関と連携し、町内会の良好なコミュニティの醸成とここちよいまちづくりを推進することを目的とした「新町三丁目まちづくり検討委員会」を設置しました。委員会を中心[new]に新町三丁目を取り巻く様々な課題分析と共有を行い、地域住民の絆の再構築を基本とした、まちづくりルール案の作成、新住民を迎えるためのルールづくり、新住民へのまち案内づくり等に取り組みました。



地域みんなによるまちづくりルールにより、いつまでも安心して住み続けられる「ここちよい新町三丁目のまちづくり」を目指します。



伏見のヒーロー伝説とまちづくり計画 《伏見歴史顕彰会》

25

伏見に関わる歴史事実を正確に後世に伝えるとともに、伏見のまちづくりに役立てることを目的としています。地元伏見においても「天明伏見義民事件」が、ほとんど知られていないことを受け、「天明伏見義民事件慰靈祭」に参加し、「伏見のヒーロー伝説」として、「天明伏見義民事件」を広く世間にPRするため、パンフレットを作成し、関係機関に配布しました。今後は、さらなるPRを行うため、講演会やシンポジウムの開催、義民マップやグッズの作成等、それらに関連したまちづくりに取り組んでいきます。



義民事件は、一般には暗い題材ですが、本会では伏見のまちの繁栄と住民の幸せな生活をもたらした明るい側面を強調します。



桃山南学区安全マップ作成 《桃山南学区自治会連合会》

25

桃山南学区では手作りのマップを作成しました。マップ作成には自治会連合会をはじめとした地域各種団体のボランティアや桃山南小学校の児童・P.T.A.が参加し、マップ作りのポイントを学習してから学区内を歩き、小学校の協力を得て学区内を8つのブロックに区切った安全マップができました。

作成したマップは、小学校に掲示し、当日参加できなかった児童も見ることができるようにしています。また、8枚のマップは、模造紙大なのでコンパクトに印刷して配布しました。



マップの作成を通じて子どもたちの安心・安全につなげるとともに、地域の連帯を深め健やかな暮らしを支えるまちづくりを目指します。防犯の観点からも、犯罪や交通事故等の発生ゼロを目指します。



おおぞら少年少女ラグビーチーム中学生になってもスポーツ続けようプロジェクト 《特定非営利活動法人 伏見クラブ》

25

区内におけるスポーツ環境の整備と競技人数の増加、健全な青少年育成と地域貢献を目指して、また、ラグビーが盛んな町であり続けることができるよう、区内の15歳以下の少年少女を対象に、経験の有無等を問わない、誰でも参加できるラグビースクールを開催しました。平日夜の下鳥羽競技場での練習会では、最大で50名を超える参加があり、12月には市内の小学校高学年を対象としたラグビーフットボール大会となる「第1回伏見カップ」を実施することができました。



支援事業に採択されたことで、運営資金の確保ができ、多くの方にPRすることができます。



伏見まちかど音楽隊 《伏見まちかど音楽隊》

26

音楽を効果的なコミュニケーションツールと捉え、音楽を中心としたコミュニティ形成の推進を図っています。その一環として、「伏見まちかど交流演奏会」を定期的に開催しています。

「伏見まちかど交流演奏会」では、レベル、ジャンル、年齢などの枠を設けず、誰でも気軽にパフォーマンス（自己表現）ができる場所を提供しており、開催することに出演希望者は増え、好評をいただいています。また、地域のイベントに出向き、野外での音楽祭の企画をすることで、そのイベントの集客、イベントとパフォーマーのつながりを作ること等に貢献しています。



今後も、演奏会を継続的に開催し、より多くの方々につながりと交流を提供すると共に、作られたコミュニティの継承も踏まえ、若い世代との交流も視野に入れていきたいです。



きずなづくりニュータウンで防犯活動 新聞及び防犯マップ作り

《向島二の丸学区防犯パトロール隊》

25

向島地域を中心とした防犯活動に準じた新聞を発行し、地域住民各戸に投函しました。新聞は、パトロール隊が行っているパトロール活動の中での特筆すべき事柄の掲載や、地域で行われた行事等の取材、防犯に対しての啓発等の資料を参考にしながら作成し、住民の防犯意識の向上に向けた活動を行っています。

今後も更に充実した紙面作りに努力し、地域住民とタイアップした新聞作りをしていきます。



読者から、思いのほか良い共感を得ています。ただ、印刷代が予想よりも高くつき、両面カラー版での印刷は初回のみとなりました。



竹田南部あんしん安全まちづくり事業

《田中宮市営住宅自治会》

25

地域コミュニティが衰退し、住民の高齢化が進んだ現在において、長らく自治組織が機能していなかった田中宮市営住宅では、災害発生時の安全の確保に大きな課題が生じています。そのため、市営住宅のみならず周辺地域の防災意識を高めるとともに、有事に、住民同士が助け合い、被害を減少させるため、市民防災センターを利用しての防災学習ツアーーやワークショップの開催などを行いました。また、防災学習ツアーーでの体験をもとにした絵本を作成し、地域での防災活動で広く活用していく予定です。



防災学習ツアーでは、子どもや高齢者達の真剣に取り組む姿に見学にきてよかったです。



ゆるキャラで町おこししよう <ゆるキャラで町おこし実行委員会>

75

ゆるキャラを使い伏見の町を紹介することにより、より多くの方に伏見という町に興味を持っていただき、町に遊びにきてもらいややすくします。豊臣秀吉の友達の設定で、頭に瓢箪をのせた「ふ～しい」というゆるキャラを使って、WEB上でふ～しいの伏見散策マップ（スマホ対応）を作り、観光マップとして稼働しました。また、「ふ～しい」の観光マップを作り、配布します。

また、いろいろなイベントに参加したり、Tシャツ等を製作したりし、盛り上げました。



ゆるキャラ「ふ～しい」で
伏見を盛り上げたいと考
えています。



みんなで楽しむ伏見の新 sake スタイル提案

<京都市伏見地域活性化プロジェクト～学びで観光の質向上を～>

75

「外部から人が多く来て賑わっている状態」を地域活性化と定義したうえで、伏見の魅力を知ってもらうことを目標とし、伏見の代表的な産業である日本酒に着目し、「新 sake スタイルブック」を作成しました。このスタイルブックは、日本酒の新しい楽しみ方を提供するフリーペーパーとして、大学生に配布し、日本酒にマイナスのイメージを抱いている若者に対し、プラスのイメージを抱いてもらうことを目的としています。また、12月には留学生対象の街歩きイベントを実施しました。



酒蔵見学や取材を通して、日
本酒作りの奥深さやこだわ
りだけでなく、歴史や文化、
街並みなどの魅力を知るこ
とがきました。



父活 PROJECT2013「ものことば」《父活 PROJECT》

75

共働き家庭の増加、近所付き合いの希薄化や核家族化の進行により、子育て中の家族が地域から孤立しやすいこと、多様な子育てのなかで「父親」がどう関わるのかを話し合う機会が少ないと、また、様々な地域の子育て支援活動があるなかで、「父親」としての接点を見いだせないということを課題としてとらえています。そこで、育児に関する「もの」づくりを通じて、父親のネットワークをつくり、自然や歴史、そして伝承された技に出会う「こと」で、子どもや家族と対話するきっかけとなり、思いや関係を形にするという「父親」ならではの取り組みとして、乳幼児期の親を対象として、木のおもちゃや木の食器づくりを行いました。



毎回プログラムのなかに、ハナスバ（※「話す場」の造語）の時間を作り、参加者同士がオープンにコミュニケーションができるようにしました。



里山とクリーンエネルギーの再生

《みどりの会伏見桃山》

75

伏見区の桃山丘陵にある桃陽病院、市立桃陽総合支援学校に付随する学びの森（約2ha）が近年ナラ枯れの被害に遭っています。生徒たちの野外活動の場であり、心の安らぎの場でもあるこの学びの森を主な活動場所とし、清掃、除草作業だけにとどまらず、ナラ枯れした樹木を伐採し、丸太や薪等に有効活用した再生可能なクリーンエネルギーの創生と、児童や子ども達が安全に楽しく森に入れる環境作りを目指します。クリーンエネルギーは、深草こどもの家などに供給しています。



自分たちの活動が、環境維持に貢献しているという自負がご褒美になっています。



伏見の「知の資源」を伏見で活かそう！ 《特定非営利活動法人 深草・龍谷町家コミュニティ》

25

区内には、社会課題解決に向けて活動するNPO法人や高い研究成果を有する大学教員など「知の資源」とも呼べる人材が多数存在します。それらの人々に活動や思いを語ってもらう連続講座を「伏見賢人講座」として7回にわたり開催しました。区内に存在する課題を解決するために、複数のセクターによるマルチパートナーシップを形成し、各団体の活動内容を知り、連携に結び付くヒントを探る講座を開催しました。



「大学のまち伏見」の学生の
パワーを地域に投入できる
ことも期待しています。



安心安全の「まちづくり」活動 《春日野自治町内会連合会》

25

地域コミュニティが希薄になりつつある中、「安心・安全に住める環境」を作り、地域住民がお互いを思いやり、見つめ合える、ぬくもりのある地域づくりの構築を図るために、統一デザインの「ステッカー」を作成しました。

作成したステッカーは、各戸に掲示し、お互いの意識向上と住民相互の連携強化を図ることができるような「安心・安全のまちづくり活動」を行います。また、年度末には「安心・安全のまち春日野宣言大会」を開催予定です。



ステッカーのアイデアは、学
区住民から募集しました。



(4) 平成24～25年度の取組

地域のコミュニティ活性化の祭典！「秋の豊穣祭り・子供みこし巡行」 《醍醐西自治町内会連合会》

24 25

各々の年代層で地域社会での世代を超えた交流活動の委縮化が進んでいることから、地域のコミュニケーション活動の一大行事として、毎年11月に「秋の豊穣祭り・子供みこし巡行」を実施しました。祭り前日の子供みこしの飾り付けや、当日のみこし巡行を通じて、学区内の老若男女が世代間を越えて元気に仲良く挨拶を交わし合える場を作ることにより、高齢者の見守りや孤独感の解消、子供達への注意や非行の監視などを通して、地域の安心安全、みんなで仲良く暮らせるまちづくりを目指しています。



みこしの飾りつけや巡行は、子どもたちと保護者や高齢者とのふれあいの場として、世代間の交流を図っています。



「向島駅前まちづくり憲章」の推進事業—健康福祉のまちづくり調査事業— 《向島駅前まちづくり協議会》

24 25

24年度は、「アンケート」を行うため10名のプロジェクトチームを立ち上げました。「アンケート調査票」について、内容等を協議した後、向島ニュータウン1街区～6街区（約4,000世帯）で「アンケート調査」を実施しました。1,356票を回収し、パソコン入力作業を行いました。

25年度は、調査を実施した向島ニュータウン1街区～6街区の自治会を対象に全体と街区別のまとめの「報告会」を行いました。

今後は、街区ごとの特徴、課題をまとめ、学区、街区など当該する単位別に「報告会」を行い、「報告書」を作成する予定です。



今回の調査結果は、住みよいまちづくりの達成に有効かつ優先的に取り組むためのツールと考えています。



2014・桜ゆらぐ疏水の街 ふかくさ・元気計画

《京・ふかくさ・藤森桜並木を愛でる会》

24 25

ふかくさ・藤森を流れる琵琶湖疏水の良さや、桜並木の美しさを、伏見区民をはじめ京都市民、伏見を訪れる観光客の方々に知っていただくことを目的として、京阪藤森駅周辺の琵琶湖疏水の桜並木及び遊歩道のライトアップを実施しました。多くの方々に琵琶湖疏水の良さや桜並木の美しさを感じていただけました。26年春には、これまで培ってきたノウハウをもとにライトアップの地域拡大や、それに関するマップの作製を考えています。



イベントは、「みらいの環境を支える龍谷プロジェクト」のメンバー及び深草稲荷保勝会の方々と協力して実施します。



伏見の歴史と文化を学ぼう！～まちゼミ＆まち歩き～

《伏見歩き隊》

24 25

24年度は、まちゼミ「伏見講話」をスタートさせ、計4回開催し、「伏見の歴史と文化」を市民とともに学びました。また、まちゼミで学んだことを広く市民に伝えるために、広報誌「まちゼミ通信」を4回発行しました。

25年度は、まち歩きの活動についても、まちゼミ「伏見講話」と一体となって行い、より多角的に学ぶことを目的として活動しました。



地域の方にできるだけ多く参加していただけるよう、工夫していきたいです。



「伏見のヨシ原、再発見！」プロジェクト

《「伏見のヨシ原、再発見！」プロジェクト》

24 25

伏見区の宇治川河川敷のヨシ原は、文化財社寺等の茅葺屋根の良質素材の供給地であり、西日本一のツバメのねぐらとなる等、様々な動植物が観察される自然の宝庫です。しかし、ヨシ原維持に不可欠なヨシ焼きが中断したことにより、ヨシ原の生態系の変化が著しくなりました。そこで、24年度は、ヨシ原の価値を再発見し、新たな伏見の財産として育てるため、ヨシ原保全対策と周知活動を行うことを目的として活動し、「新生ヨシ焼き」として住民の手で復活させました。25年度は、「新生ヨシ焼き」を定着させるべく活動するとともに、伏見でのヨシの活用も模索しています。三栖地域でかつては盛んに行われてきた「ヨシズ作り」を再興できたらと「ヨシズ作り体験会」等も積極的に行いました。



これまでの活動が認められ、地域住民に伏見のヨシ原への理解が深まったと感じています。



地域から広げる手作り市・久我・久我の杜・羽束師「ここはづ市」

《「ここはづ市実行委員会》

24 25

平成24年9月から平成26年3月までに15回、久我の杜地域包括支援センターで「ここはづ市」を開催しました。「ここはづ市」という名称は、久我（こが）・久我の杜（こがのもり）・羽束師（はづかし）の3地域の頭文字から取りました。ここはづ市では、手作りを得意とするお母さんが中心となってブースを出すほか、音楽会や子ども向けのワークショップ、染物体験を企画しました。

また、広報の一環でチラシやポスター、ブログを作成するとともに、「ここはづ通信」を発行し、広く住民に地域情報を提供し、子どもからお年寄りまで多世代の交流を図りました。



これからも、地域密着の手作り市を開催し、新旧住民の交流が深まり、子どもからお年寄りまで多くの人が集まる場づくりを目指します。



醍醐石田まちづくりプロジェクト

《醍醐石田まちづくりプロジェクト実行委員会》

24 25

醍醐石田地域においても、地域コミュニティの活力低下、人口減少、少子高齢化、コミュニティ拠点不足などが生じています。今後さらに地域コミュニティの絆が大切な時代となることから、24年度は、少子高齢化の推移調査や、学生による地域コラボレーションの試み、発掘などの調査を実施しました。それらを踏まえ、25年度は、若者を中心に、地元に住んでおられる方々が主体となって、将来に向けたまちづくりについて話し合われる取組を行いました。また、「まちづくりリーフレット」を作成し、議論の輪を広げました。



住民のまちづくりに対する
意識の醸成を目指します。



久我・久我の杜・羽束師地域における住民主体のまちづくり

《久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会》

24 25

平成23年10月に地域の中長期的なまちづくりの方針と、それを実現するための取組方針を記した「久我・久我の杜・羽束師地域の総合的なまちづくりビジョン」が策定されたことを受け、同ビジョンの基本方針に基づく事業を実施しました。

24年度は、まちづくりの輪を広げることに重点をおきながら、地域の関係者や施設、大学と連携した事業を展開しました。「葉膳講習会・地域の野菜即売会」や「ふれあい農業体験」、特色ある建物調査や「まちかどアルバム」のパネル作成等を行いました。25年度は、24年度の成果を踏まえ、さらに発展させて実施することを考え、特色ある建物を訪問する「まち歩き会」、地域の伝承を「紙芝居」にして残す取組、災害時に町内で助け合って避難するための要配慮者を把握する調査、久我菜を収穫する農業体験事業等を実施しました。今後も、地域に根差した深みのある取組を進めていきます。



取組を通して参加者とともに地域の良さを再認識できました。また、住民の地域への関心の高さを知ることができました。



深草のまちで育む藤袴プロジェクト 《深草藤袴の会》

24 25

絶滅寸前危惧種に指定されている藤袴の苗を、深草地域の自治会、学校、商店街、地域女性会、NPOが主体となり、初夏に育て、秋には、まちのあちこちに藤袴の花鉢を飾りました。さらに、藤袴の花鉢を配置し、花を愛でながらの茶会を開催し、自然への理解と愛着を育む事業を行いました。そのほか、ふれあいプラザへの出展や地元学生ボランティアと協働で、藤袴の香りを楽しむワークショップを実施し、地域連携と自然への愛着を育む事業を実施しました。



藤袴を通じ、深草地域の各種団体との横のつながりが強化できたと思います。



深草産・竹紙うちわの技術・文化の継承プロジェクト 《NPO 法人京都深草ふれあい隊 竹と緑》

24 25

深草でうちわに関する伝統技術が衰退の危機にあることを危惧し、その技術を次世代につなげるための職人作りを目的としました。24年度は、竹の骨作りの機具、骨を編む際の補助具などを製作、研修のための準備作業を実施し、区民を対象にうちわづくりの体験教室を開催しました。25年度は、作業の細分化を企画し、地域団体に骨編みに挑戦していただいたり、大学とタイアップして、体験教室のスタッフ育成を始めるなど、一日も早く、技術継承が出来る職人さんを育てられるよう継続した取り組みを行っています。



支援事業のおかげで、伏見の幅広い層に呼びかけることができました。うちわ作りに関心のある方は、ぜひ体験会や研修会に参加してください。



第2回醍醐灯りのハーモニー～みんなのこころに灯りをともそう～ ＜人づくり21世紀委員会 伏見東人づくりネットワーク実行委員会＞

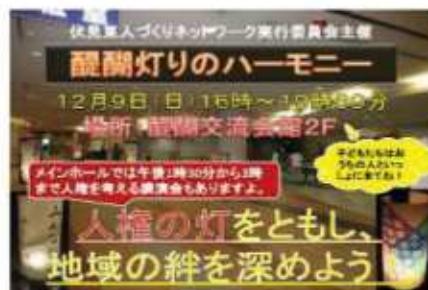
24 25

学校・家庭・地域社会の連携のもと、たくましい思いやりのある子どもの育成と子ども一人一人の可能性が最大限に開花できる条件作りを目指した当会は、地域コミュニティの活性化を図り、児童・生徒と保護者、地域住民がふれあい、絆を一層深め、地域ぐるみで子供を守り育てる機運を高めるため、醍醐交流会館において、「醍醐灯りのハーモニー」を実施しました。

イベントでは、人権灯路を点灯し、人権に関わる子どもたちの作品の展示や児童・生徒のステージ発表、様々な体験コーナーを設置し、身近な人権について考える場になりました。



地域の理解と協力を得て進めることができ、多くの参加者で賑わいました。



醍醐の子どもをつなぐ「人形劇フェスティバル」 ＜特定非営利活動法人 山科醍醐子どものひろば＞

24 25

近年、子どもを取り巻く社会の諸課題によって、子どもの育ちの多様性が損なわれており、人形劇や文庫活動などの児童文化に触れる機会が必要といわれています。醍醐地域では、「人形劇サークル」や「文庫連絡協議会」等、児童文化を形作る上で社会資源となっている団体があります。そこで各団体と連携し、地域の子どもたちが児童文化に地域の中で触れる機会として、「醍醐子ども人形劇フェスティバル」を開催し、住みやすい地域づくりを目指しました。



24年度は、「醍醐子どもボランティアセンター事業」として醍醐地域団体主催の子ども対象イベントへのボランティアコーディネート等も行いました。



4. おわりに（編集後記）

今回の事例集作成に当たり、活動についてお話を伺うため、いくつかの団体を取材しました。その際、最も印象に残ったことは「区民活動支援事業」として活動に取り組む区民の方々が口をそろえて「よい仲間に出会えた」と言われることです。

「区民活動支援事業」をきっかけに伏見でのまちづくりを始めた人たちも、日頃から地域活動をされてきた自治会の皆さんも、1年～2年にわたる活動を通じて素敵なお出会いがあり、伏見での顔なじみが増えました。

このように、結果として新しいコミュニティづくりのきっかけを生み出しているところに、区民が主役のまちづくりの魅力を感じました。

「防災や福祉など暮らしの中で気になることを解決したい」、「音楽や手芸など自分の得意なことを地域活動に活かしてみたい」、「伏見の自然や歴史を守りたい」など一人一人の心に芽生える思いが多様であればあるほど、活動の幅が広がり、まちは豊かになると思います。

次の「区民活動支援事業」ではどのようなまちづくり企画が飛び出すのか、どんな人と人のつながりが生まれるのか、とても楽しみです。

【本事例集に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室企画担当（電話611-1295）

【伏見区区民活動支援事業に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室まちづくり推進担当（電話611-1144）

深草支所地域力推進室まちづくり推進担当（電話642-3203）

醍醐支所地域力推進室まちづくり推進担当（電話571-6135）



平成 26 年 3 月発行
伏見区役所地域力推進室
京都市印刷物第 253217 号



伏見区基本計画重点戦略「融合プロジェクト」について

伏見区基本計画を推進するため、今後10年間のまちづくりの基軸となり、各分野を融合して幅広い効果が期待できる次の3つの取組を「融合プロジェクト」と名づけ、「伏見ですむ」人・事業者と行政が主体となった取組を重点的に進めることとしている。

1 エコライフ・プロジェクト

環境共生の魁（さきがけ）をめざし、区民が主役のエコライフ活動を提唱する

2 魅力再発見・プロジェクト

地域の魅力や資源を再発見し、「伏魅力」を内外に発信する

3 絆づくり・プロジェクト

地域で活動する人や団体、事業者等の情報共有、交流、サポートを行う

1 エコライフスタイル「伏見ですむ」～エコライフ・プロジェクト～

(1) 事業内容

区民が主役のエコライフ活動の実践に向け、市民活動団体、事業者、行政等の交流・連携を促進しつつ、区民一人ひとりが環境にやさしい行動をするきっかけとなる事業展開を図る。

本事業を通じて、伏見の多彩な人や団体の取組内容を知ってもらうための新たな情報発信を試みるとともに、そこから知り得た伏見の恵みを活かした区民参加型の交流イベントを行う。

(2) 平成25年度実績

ア 定例ミーティング

4月～8月、10月の合計6回、伏見エコライフプロジェクトメンバーだけでなく、関心のある区民に呼びかけてミーティングを行い、事業計画やエコクッキングイベントに向けた試作を行った。



イ エコクッキングイベント

平成26年2月7日（金）、伏見青少年活動センターにおいて久我地域の野菜を用いた料理教室を実施した。参加者が自ら調理し、農家の話に耳を傾け、意見交換を行い、地産地消の大切さなどを実感する機会となった。参加者は学生、社会人、市内在住外国人などが集まり交流を深めた。



開催日	場所	参加費	参加者
2月7日（金）	伏見青少年活動センター	500円	19名

ウ 取材調査から得た伏見の恵みとなる資源（農作物、水、日本酒、エネルギーなど）や自然に関わる人について、その魅力を広く発信

8月～2月にかけて2,3人の取材チームを作り、伏見のヨシ原や深草うちわ、農業に携わる人々を7か所取材し、ホームページで発信した。円滑な取材を行えるよう11月30日（土）に「取材力スキルアップ講座」を開いた。

9月8日（日）開催の「伏見ふれあいプラザ2013」に参加しブースにおいて情報発信を行ったほか、3月9日（日）の「エ～コと伏見2014」や3月15日（土）の「合同伏見大収穫祭」にて活動報告を行った。



（3）平成26年度予定

環境活動に携わる人を取材する活動や区民参加型交流イベントを展開し、伏見のエコな人図鑑などのコンテンツ充実を図りながら、エコライフ活動を拡げるきっかけとなる情報発信と参加者の拡大を目指していく。

2 「伏魅力」再発見・発信～魅力再発見・プロジェクト～ 伏見連続講座 ～ふれて、しって、みて伏見～



(1) 事業内容

伏見区では、かねてより多くの大学が公開講座等を実施され、伏見の魅力を多くの市民に伝えてこられた実績がある。これらの公開講座を中心に、その他、区内で行われる伏見に関する講演会やフィールドワークを「伏見連続講座～ふれて、しって、みて伏見～」として平成23年度から実施している。各々の特色を生かして幅広い分野から座学や伏見をフィールドにした体験学習等を企画・実施し、伏見に関わりのある人々に、伏見の魅力を知る機会を広く提供している。

昨年度は、種智院大学、NPO法人防災白熱アカデミイが新たに参画し、また京都都市歴史資料館の歴史講座を連続講座に位置付ける等、講座内容を充実させたことから、2500名を超える受講者があった。

(参画団体)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ・龍谷大学龍谷エクステンションセンター | ・伏見城研究会 |
| ・京都聖母女学院短期大学 | ・伏見楽舎 |
| ・京都文教大学フィールドリサーチオフィス | ・伏見まるごと博物館【新規】 |
| ・京都教育大学 | ・伏見歩き隊【新規】 |
| ・種智院大学 | ・深草ふれあい事業実行委員会 |
| | ・醍醐もちもちいんウォーク企画委員会 |

(2) 平成25年度開講実績

回	開催日	主催者	講座名	受講者数	定員
1	9月14日(土)	京都聖母女学院 短期大学	伏見の御佛像(みほとけ)	224名	200名
2	9月21日(土)	龍谷大学	町家から学ぶ—深草の文化と歴史—	135名	200名
3	9月25日(水)	NPO法人防災 白熱アカデミイ	伏見城崩壊をもたらした慶長伏見地震と地震防災	93名	※30名
4	9月28日(土)	京都聖母女学院 短期大学	伏見と能・狂言II	165名	200名
5	10月2日(水)	NPO法人防災 白熱アカデミイ	南海トラフ巨大地震が発生するとどうなるのか	82名	※30名
6	10月5日(土)	京都文教大学	まち歩きカルタ・ワークショップ～共に考える‘ぶらり伏見’のデザイン～	21名	15名 (事前申込み要)
7	10月6日(日)	淀本町、淀新町周辺	「淀古今眞佐子」を歩く、淀城下町歩き(2)	32名	30名 (事前申込み要)
8	10月9日(水)	NPO法人防災 白熱アカデミイ	豊かな地下水と地盤災害について	80名	※30名

回	開催日	主催者	講座名	受講者数	定員
9	10月12日(土)	龍谷大学	街並み、伝統と現代	92名	200名
10	10月19日(土)	京都聖母女学院短期大学	伏見指月の風光—室町時代公家の遊びを通して—	209名	200名
11	10月20日(日)	NPO法人防災白熱アカデミィ	京大防災研究所宇治川ラボラトリーア見学会	23名	15名 (事前申込み要)
12	10月26日(土)	京都聖母女学院短期大学	つながりが見えて、初めて気になる環境問題—伏見と地球環境—	101名	200名
13	10月27日(日)	京都市歴史資料館	歴史講座：「伏見・淀 川でつなぐ都市」	168名	200名
14	11月 2日(土)	醍醐もちもちいんウォーク企画委員会	醍醐もちもちいんウォーク～醍醐三水と天皇陵をめぐる～	128名 (申込数)	100名 (事前申込み要)
15	11月 9日(土)	京都教育大学	ジェンダー平等は子どもの発達可能性を拓げる鍵	82名	400名
16	11月16日(土)	龍谷大学	町家の活かし方—京町家検定に挑戦！—	55名	200名
17	11月16日(土)	伏見楽舎	伏見城今昔物語	253名	200名
18	11月30日(土)	京都聖母女学院短期大学	西鶴作品に—江戸時代の町の風景—	156名	200名
19	12月14日(土)	伏見楽舎	町なかの草屋根を見て廻ろう～ヨシ葺き屋根復興の可能性を探る～	84名	200名
20	1月11日(土)	深草ふれあい事業実行委員会	所変われば品変わる！？お稲荷さんと稻荷信仰	212名	200名
21	2月8日(土)	種智院大学	子育て支援を通して考える伏見の地域作り	38名	200名
22	3月29日(土)	伏見城研究会	淀城発掘	107名	200名

受講数合計:2, 540名

※ NPO法人防災白熱アカデミィの講座（9月25日、10月2日、10月9日に実施）は、当初30名定員の会場を予定していたが、問合せが多くあったため、急遽、会場を変更して実施。

（3）平成26年度予定

参加者から好評のため、今年度も基本的にはこれまでのスタイルを継承していくが、参加者のニーズを講座内容に反映させるとともに、まち歩き等フィールドワーク系講座の充実を図るなど、より幅広い層の参加を目指す。

3 絆づくり・「伏見力」増進～絆づくりプロジェクト～ 伏見をさかなにざっくばらん～思いをかたちに～



(1) 事業内容

「伏見を盛り上げたい」、「伏見の魅力を発信したい」など伏見をテーマに何かを始めてみたい方や、「もっと多くの人達と協力して地域を盛り上げたい」との思いを持つ方が集まる場を提供し、参加者が伏見のまちへの思いをざっくばらんに出し合いながら、ワークショップ形式で議論を深め、区民主体のまちづくり活動につなげていくことを目的として月1回定例会を開催している。

(事務局) 伏見区役所・深草支所・醍醐支所、京都市まちづくりアドバイザー

NPO 法人 場とつながりラボ home's vi

(協力団体) 京都市伏見いきいき市民活動センター、京都市伏見青少年活動センター

京エコロジーセンター、京都市国際交流会館

(2) これまでの実施状況

ア 第1期（平成24年6月～平成25年6月）

全体会では、事業提案の後、チームづくりを行い、実際のまちづくり活動につなげることを目指して話し合いを行った。平成25年6月には、「収穫祭（成果発表会）」を開催し、各チームからの活動報告が共有され、第1期を締めくくった。



イ 第2期（平成25年7月～平成26年3月）

第1期から継続して活動を行うチームに加えて、新規で事業提案を行った参加者による新たなチームづくりが始まっている。第2期は、チーム間の協力と連携といった「横のつながり」にも着目し、チーム協働の取組が生まれるような場づくりを進め、平成26年3月には、「伏見大収穫祭」（成果報告会）を開催し、第2期に活動したチームそれぞれの活動成果を共有することができた。



ウ 平成25年度開催状況

回	実施日	参加者数	内容
1	4月27日（土）	60名	提案ごとに結成された14のチームで、具体的なまちづくり活動の実践に向けて、チームメンバー間で議論を深めた。
2	5月25日（土）	51名	
3	6月29日（土）	74名	各チームによるこれまでのまちづくり活動の成果を発表する「収穫祭」を龍谷大学において開催した。
4	7月27日（土）	63名	第2期開始 参加者の交流を深めるワークショップを行うとともに、継続して活動するチームでは、今後の活動に向けた議論を深め、今期の事業提案に向けての準備を進めた。
5	8月24日（土）	64名	定例会終了後、大手筋商店街において、ふしづく周知のための広報活動（うちわを作成し、配布）を参加者とともに実施した。 「伏見ふれあいプラザ2013 ふしづくブース」の準備を行った。（※）
6	9月28日（土）	57名	参加者が、今後取り組みたい事業の提案を行い、提案ごとの分科会で、具体的な内容についての議論を行い、チーム結成のための仲間集めを行った。
7	10月26日（土）	53名	事業提案ごとに結成されたチームで、具体的なまちづくり活動の実践に向けて、メンバー間で議論を深めていく。
8	11月30日（土）	56名	
9	12月21日（土）	53名	
10	1月25日（土）	55名	
11	2月22日（土）	57名	
12	3月15日（土）	97名	各チームにおける第2期の活動成果を発表する「伏見大収穫祭」を開催
合計		740名	

※ 9月8日（日）には、ふしづくメンバー有志により「伏見ふれあいプラザ2013」において、ふしづくブースを設け、広報活動を行った。（30名程度参加）

【活動内容】子どもを対象に、うちわ（宣伝チラシを裏面に添付）・紙ふうせん作成
ふしづくメンバー有志及び着ぐるみによるチラシ配布

（3）平成26年度予定

第3期（平成26年4月～27年3月）ふしづくを開催している。毎月の定例会に加えて、成果発表会や交流会の開催、及び区イベントなどへの参加等の活動の機会及び場を広げる等の検討を進め、区民主体のまちづくり活動を充実させていく。



「黒田甲斐守」史跡建碑記念講演 歴史講演会のお知らせ

伏見区において、伏見の魅力を再発見していただくことを目的に、実施されている「伏見連続講座一ふれて、じって、みて伏見一」の番外編として、下記の講座を実施します。

伏見城と、現在放送中のNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の主人公、黒田官兵衛にまつわるお話をぜひ聴きに来てください。皆様の御来聴をお待ちしております。

記

日 時 平成26年6月16日(月) 17時30分~19時30分

会 場 伏見区総合庁舎4階大会議室(伏見区鷺匠町39番地2)

内 容 黒田官兵衛が亡くなったのはどこか

—伏見城の大名屋敷の位置を考える—

講 師 中村 武生氏(歴史地理史学者)

定 員 200名(先着順)

費 用 500円(資料代)

申込み 不要(直接会場にお越しください)

主 催・問合せ

NPO法人京都歴史地理同考会

中村 武生氏

(電話 090-4641-8595・Eメール koorihm@ybb.ne.jp)

共 催 伏見区役所



会場へのアクセス

近鉄丹波橋駅、近鉄桃山御陵前駅、京阪丹波橋駅、京阪伏見桃山駅から

いずれも徒歩約10分

京都市営バス(西大手筋から徒歩約10分、肥後町から徒歩約5分)



できる限り公共交通機関でお越しください。